

久留米市セーフコミュニティ 外傷等動向調査委員会

発表日 2022年12月21日
発表者 外傷等動向調査委員会 山下典雄
所属 久留米大学

1 委員会の概要

1. 委員会の概要

外傷等動向調査委員会の構成メンバー

区 分		所 属
医療機関	1	久留米大学医学部
	2	一般社団法人 久留米医師会
	3	社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院救命救急センター
損害保険事業者	4	損害保険ジャパン株式会社 久留米中央支社
関係機関	5	久留米広域消防本部 救急防災課
行政機関	6	久留米市保健所
	7	久留米市協働推進部

新メンバー

➤ 新メンバーについては、14ページで説明します。

外傷等動向調査委員会の設置

SC認証センターが示す「セーフコミュニティ7つの指標」より

指標
4

あらゆる入手可能な「根拠」に基づいた仕組み

指標
5

外傷の頻度と原因を記録する仕組み

指標
6

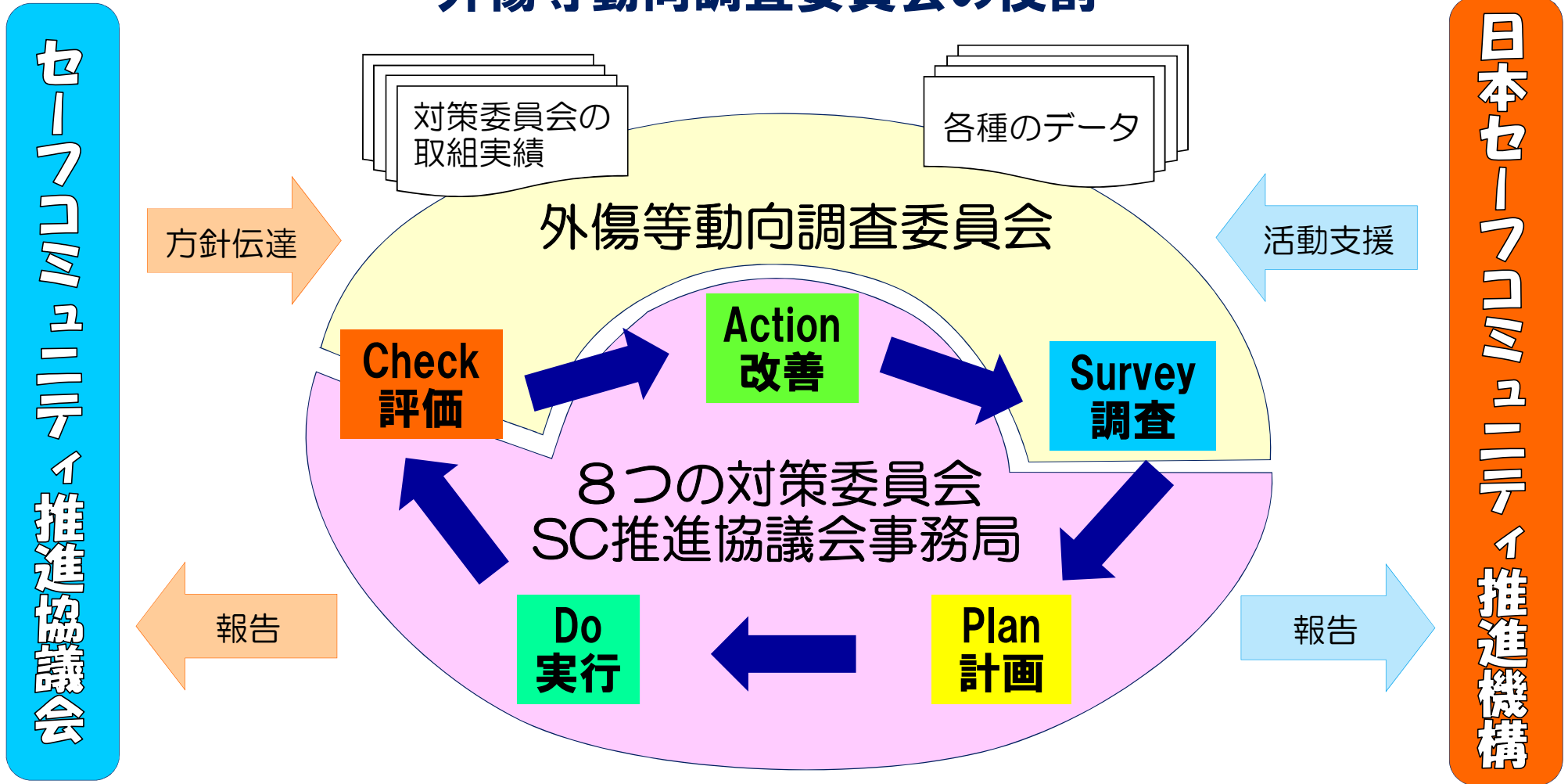
取り組みの内容・過程・変化による効果を測定・評価

ケガや事故に関するデータ収集や発生動向の分析を行ない、取り組みの効果や活動の質を高めるための助言や評価を行う必要がある。

外傷等動向調査委員会の設置

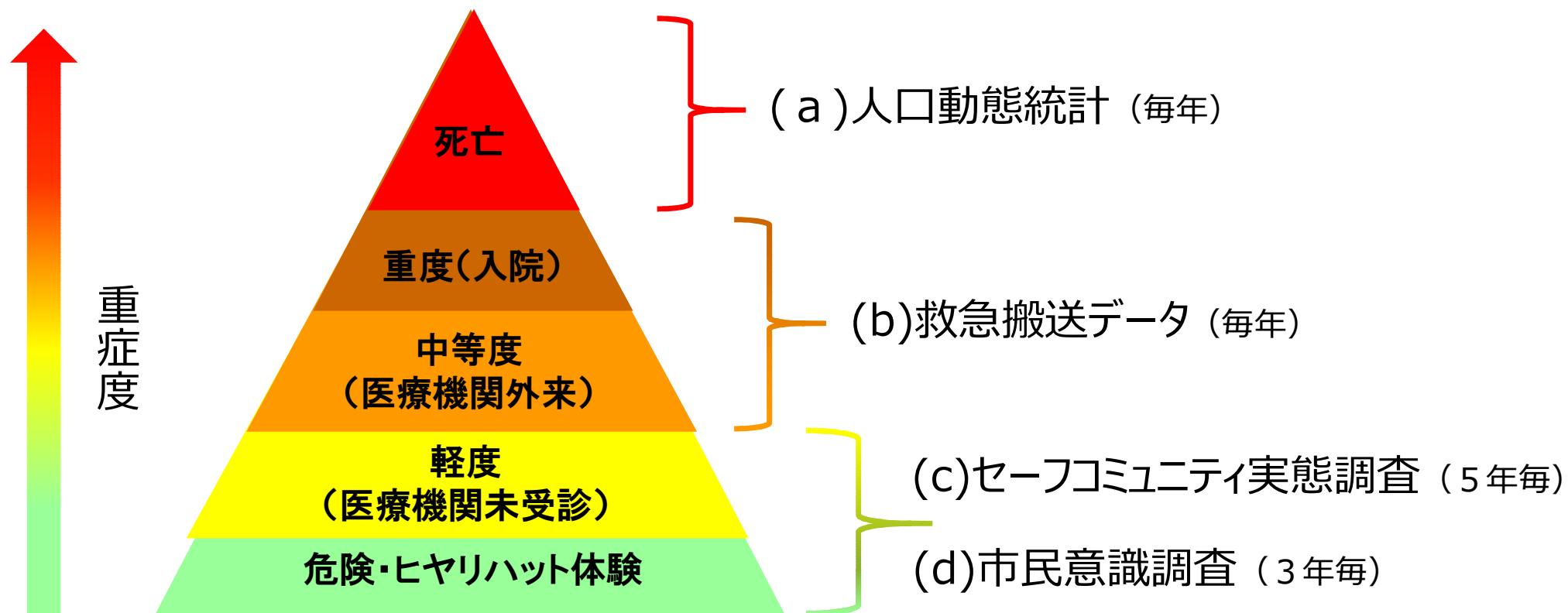
1. 委員会の概要

外傷等動向調査委員会の役割



1. 委員会の概要

外傷の頻度と原因を記録する仕組み



日本では外傷全体の概要を把握できるデータ収集・分析の仕組みがない

→ **様々な既存データの活用・アンケート調査を実施**

1. 委員会の概要

外傷データの収集

対策委員会	外傷等動向調査委員会事務局で収集 外傷等動向調査委員会で分析				各対策委員会事務局で収集 各対策委員会で分析													
	(a) 人口動態統計	(b) 救急搬送データ	(c) セーフコミュニティ実態調査	(d) 久留米市民意識調査	警察統計	アンケート 自転車の安全利用に関する	次世代育成に関するニーズ調査	家庭子ども相談集計データ	福岡県久留米児童相談所集計データ	学校災害給付請求データ	保健室けが調べ	生徒の安全アンケート調査	高齢者実態調査	長寿支援課統計資料	男女平等推進センター相談の状況	男女平等に関する市民意識調査	厚生労働白書	気象統計
交通安全	●	●	●	●	●	●												
児童虐待	●	●	●	●			●	●	●									
学校の安全	●	●	●	●						●	●	●						
高齢者の安全	●	●	●	●									●	●				
防犯			●	●	●													
DV防止	●	●	●	●				●							●	●		
自殺予防	●	●	●	●													●	
防災		●	●	●														●

再認証取得までに行った主な見直し

【①医療機関におけるアンケート調査の実施】

セーフコミュニティ先進自治体の事例研究

データ収集に向けた具体的内容の協議
(調査方法・質問項目・時期・対象者など)

2015年に実施

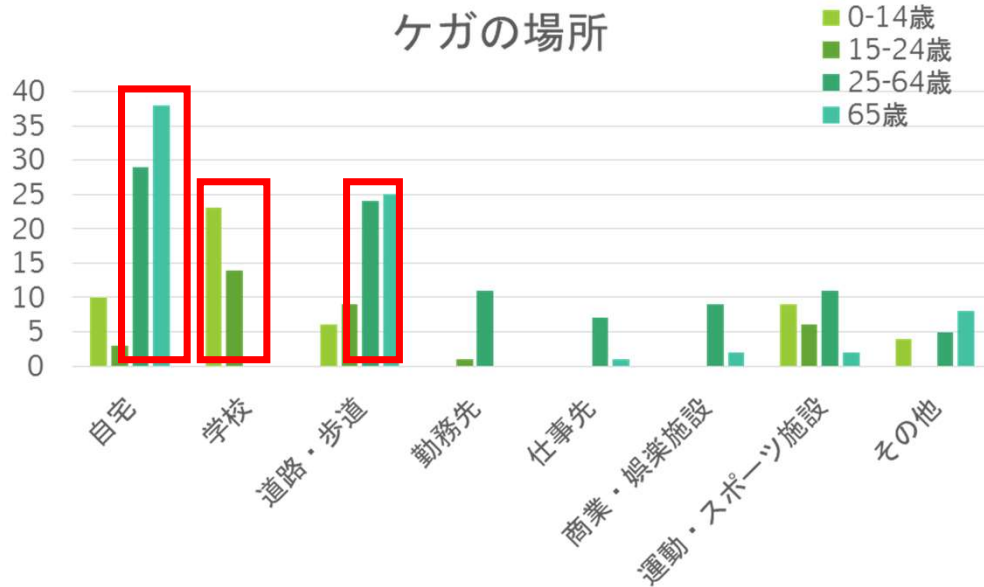
- ・整形外科、外科などの5医療機関で実施。
- ・3ヶ月で261回答



1. 委員会の概要

再認証取得までに行った主な見直し

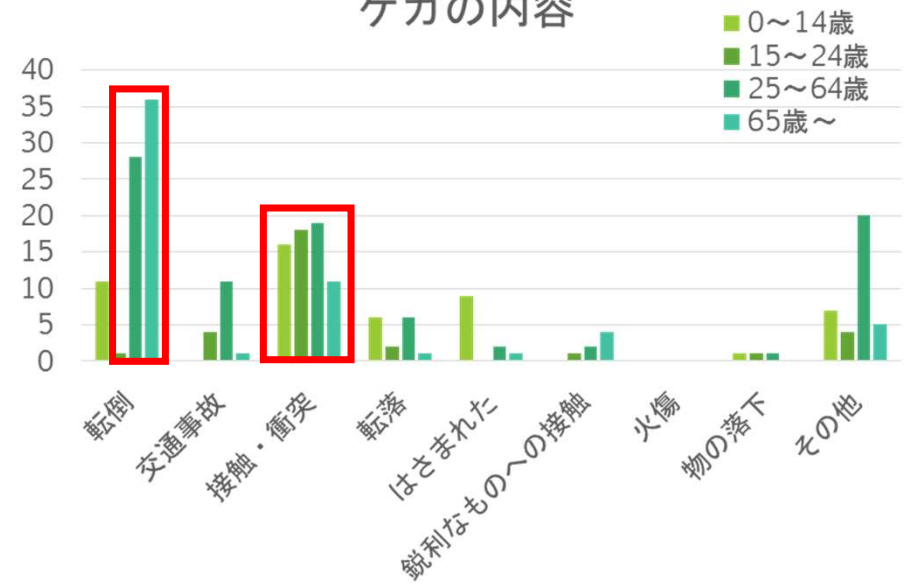
アンケート調査の結果



子どもは「学校」、高齢者は「自宅」「道路・歩道」が多い

ケガの内容

2015年(H27年)



高齢者は「転倒」、「接触・衝突」はどの年齢層にも多い

アンケート調査の結果は統計データと同じ傾向



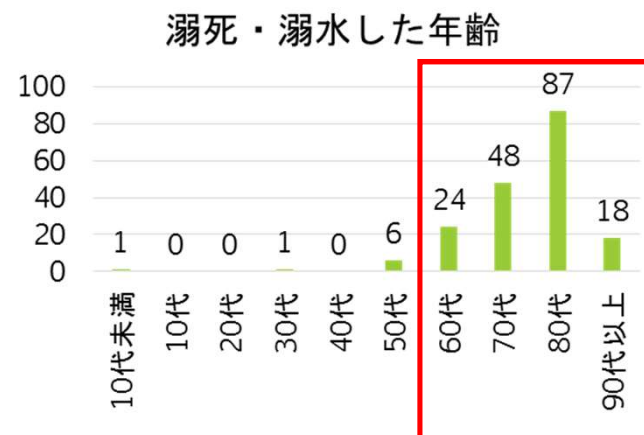
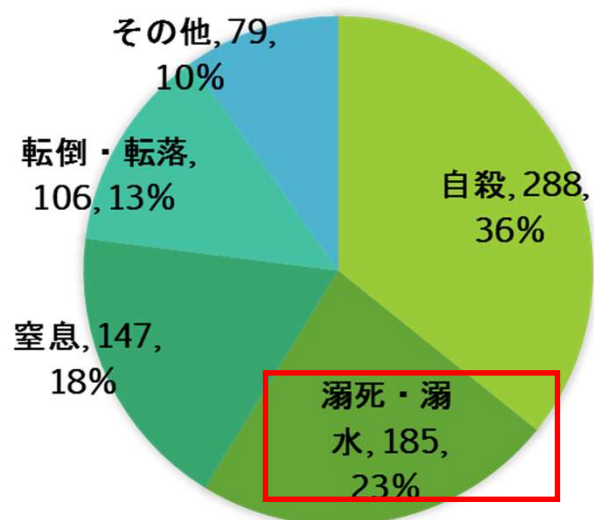
統計データの信頼性が確認できたため、アンケート調査は中止

1. 委員会の概要

再認証取得までに行った主な見直し

【②「溺死・溺水」に関するデータの分析】

2017年10月の事前指導で、「高齢者の溺死・溺水」への対応について助言をいただく。

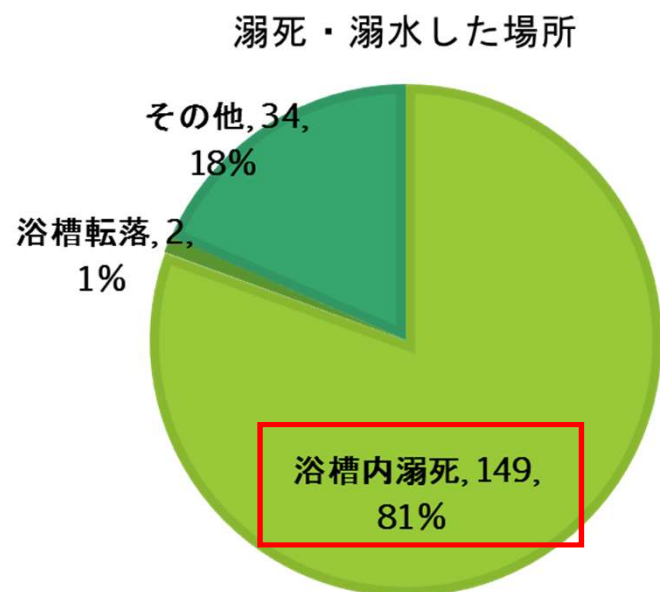


166人が65歳以上

出典：人口動態統計 2012年(H24年)～2016年(H28年)

1. 委員会の概要

再認証取得までに行った主な見直し



149人が浴槽内
8割が家庭内の浴槽



日本では…



お湯をはった浴槽に入り、
体を温める習慣がある。

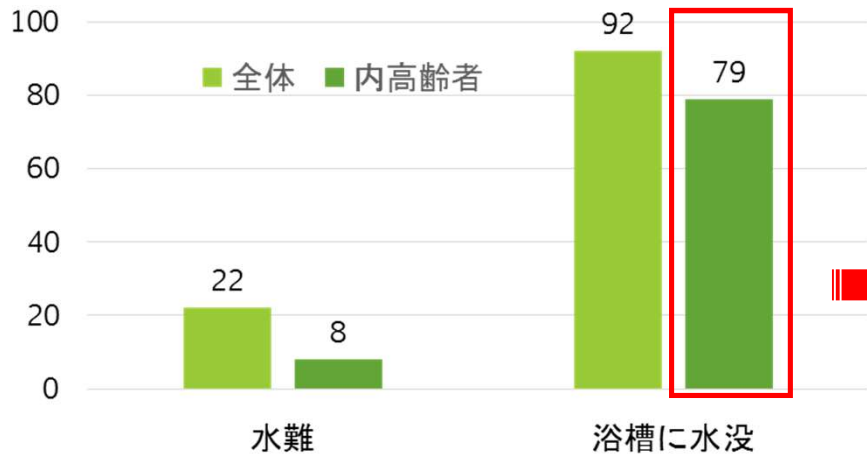


出典：人口動態統計 2012年(H24年)～2016年(H28年)

1. 委員会の概要

再認証取得までに行った主な見直し

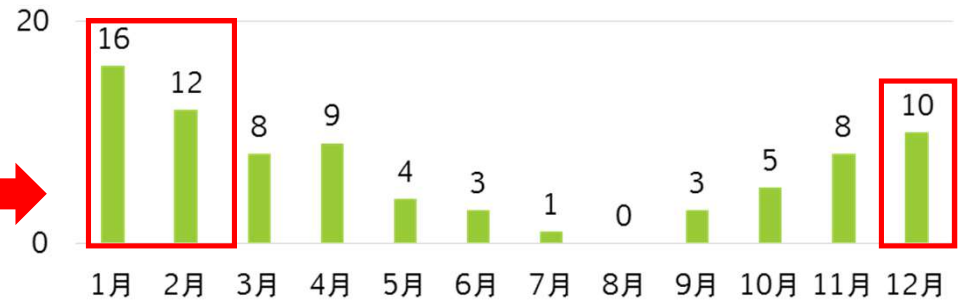
溺死関連で救急搬送された人



79人が65歳以上
8割が高齢者

出典：救急搬送データ 2012年(H24年)～2016年(H28年)

浴槽に水没した時期



79人のうち38人12月から2月
救急搬送される時期は冬

高齢者の安全対策委員会へ情報提供

高齢者の安全対策委員会で
対策を開始

2 再認証取得後の取組

2-1 委員構成の見直し

2-2 重点分野に関するデータの検証

2-3 対策委員会の取組成果の検証

2. 再認証取得後の取組 (2-1 委員構成の見直し)

委員会の構成メンバーの見直し①

区分		所属
医療機関	1	久留米大学医学部
	2	一般社団法人 久留米医師会
	3	社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院救命救急センター
損害保険事業者	4	損害保険ジャパン株式会社 久留米中央支社
関係機関	5	久留米広域消防本部 救急防災課
行政機関	6	久留米市保健所
	7	久留米市協働推進部

新メンバー

見直し理由① 交通事故に関する全国的な知識を活用

見直し理由② コミュニティの人材を活用

委員会の構成メンバーの見直し②

これまでに頂戴した全国的な知識に基づいた意見

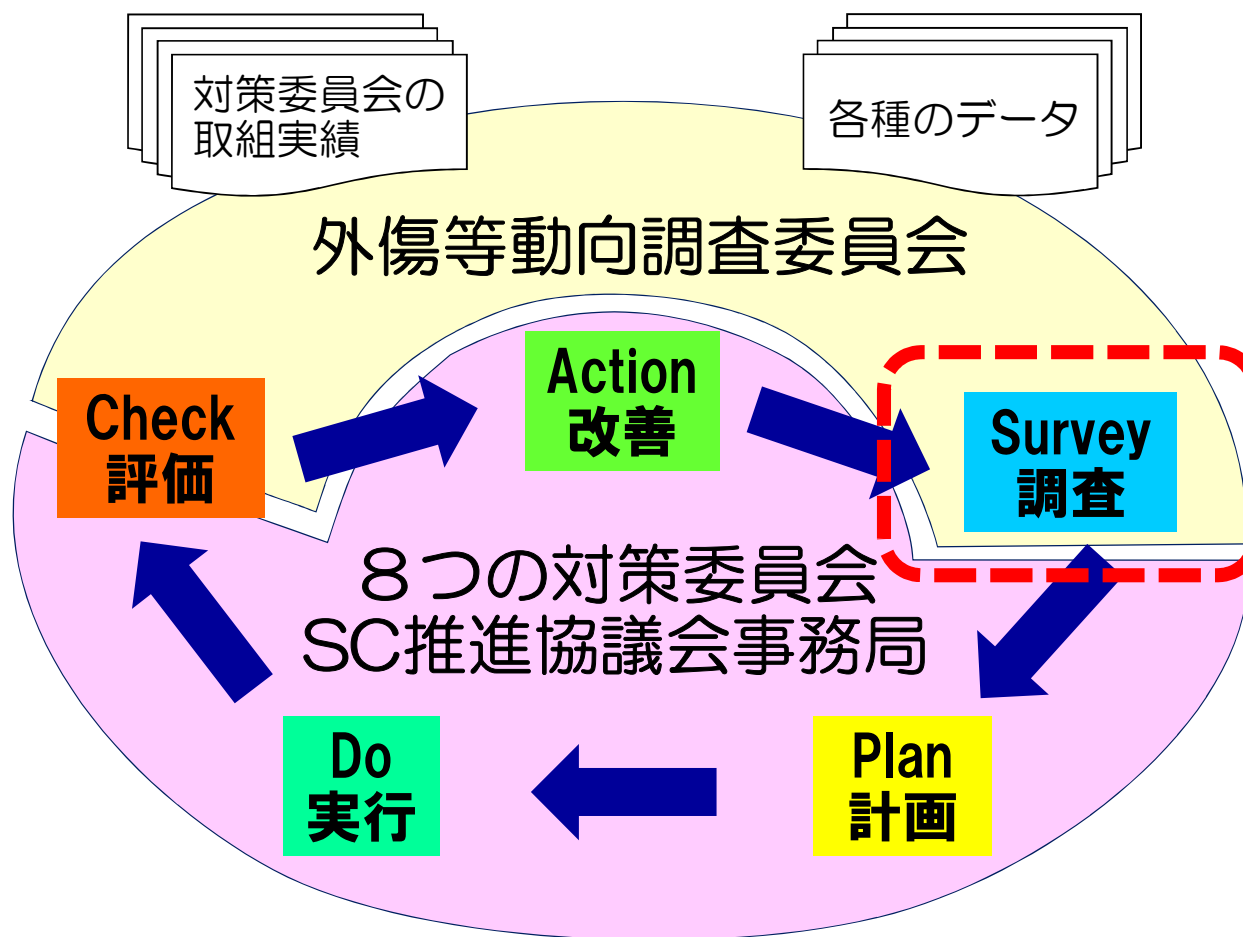
- 久留米市は、幹線道路のバイパス整備が遅れており、市街地の交通量が多い。事故防止のためには、ドライバーだけでなく、歩行者のマナーアップも大切だと思う。
- 市街地の交通量の多さから、住宅地の細い道路を通行する車が多い。歩行者を守る運転についての啓発が大切だと思う。

メンバー

見直し理由① 交通事故に関する全国的な知識を活用

見直し理由② コミュニティの人材を活用

2. 再認証取得後の取組 (2-2 重点分野に関するデータの検証)



久留米市の重点分野の設定背景

交通安全

(方向性)
交通事故を減らす



子どもの安全

(方向性)
子どものケガや
事故を予防する



高齢者の安全

(方向性)
高齢者のケガや
事故を予防する



犯罪・暴力の 予防

(方向性)
犯罪・暴力を予防する



自殺予防

(方向性)
自殺者をなくす



防災

(方向性)
災害に備える



2. 再認証取得後の取組 (2-2 重点分野に関するデータの検証)

重点分野の設定背景① 取組開始時の安全診断

病気を除く死亡原因の上位

出典：人口動態統計 2007年～2011年の累計

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
0～9歳	溺死・溺水 2	交通事故 1			
10～19歳	自殺 8	交通事故 5	転倒・転落 1	窒息 1	
20～29歳	自殺 38	交通事故 7	溺死・溺水 4	煙・火 1	
30～39歳	自殺 59	交通事故 6	中毒 4	転倒・転落 2	他殺 1
40～49歳	自殺 59	交通事故 6	中毒 3	溺死・溺水 2	転倒・転落 1
50～59歳	自殺 86	交通事故 13	溺死・溺水 9	窒息 7	その他
60～69歳	自殺 56	溺死・溺水 14	交通事故 12	窒息 10	転倒・転落 7
70～79歳	溺死・溺水 44	自殺 40	窒息 26	転倒・転落 25	交通事故 17
80～89歳	溺死・溺水 55	窒息 47	転倒・転落 24	自殺 21	その他
90歳～	転倒・転落 23	窒息 22	溺死・溺水 11	交通事故 6	その他

(重点課題)

自殺予防の取り組みが必要

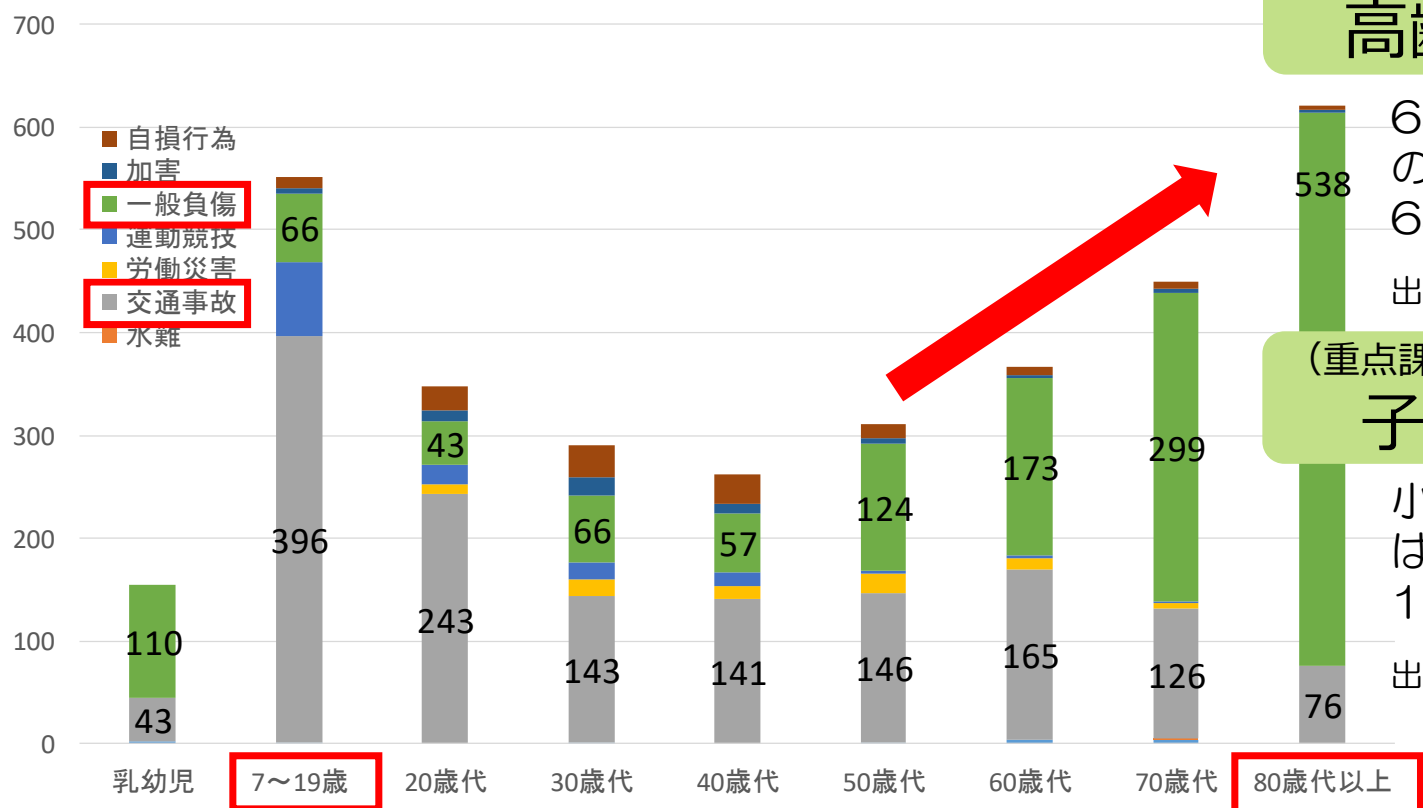
(重点課題)

交通安全の対策が必要

2. 再認証取得後の取組 (2-2 重点分野に関するデータの検証)

重点分野の設定背景② 取組開始時の安全診断

年代別救急搬送件数（病気を除く）



(重点課題)

高齢者の安全対策が必要

65歳以上の高齢者の救急搬送原因の第1位は、**転倒・転落・衝突**で、約65%を占める（病気を除く）。

出典：救急搬送データ 2010年(H22年)

(重点課題)

子どもの安全対策が必要

小学生が自宅以外でけがをした場所は、**学校**が最も多く、その割合も11.8%と比較的高い。

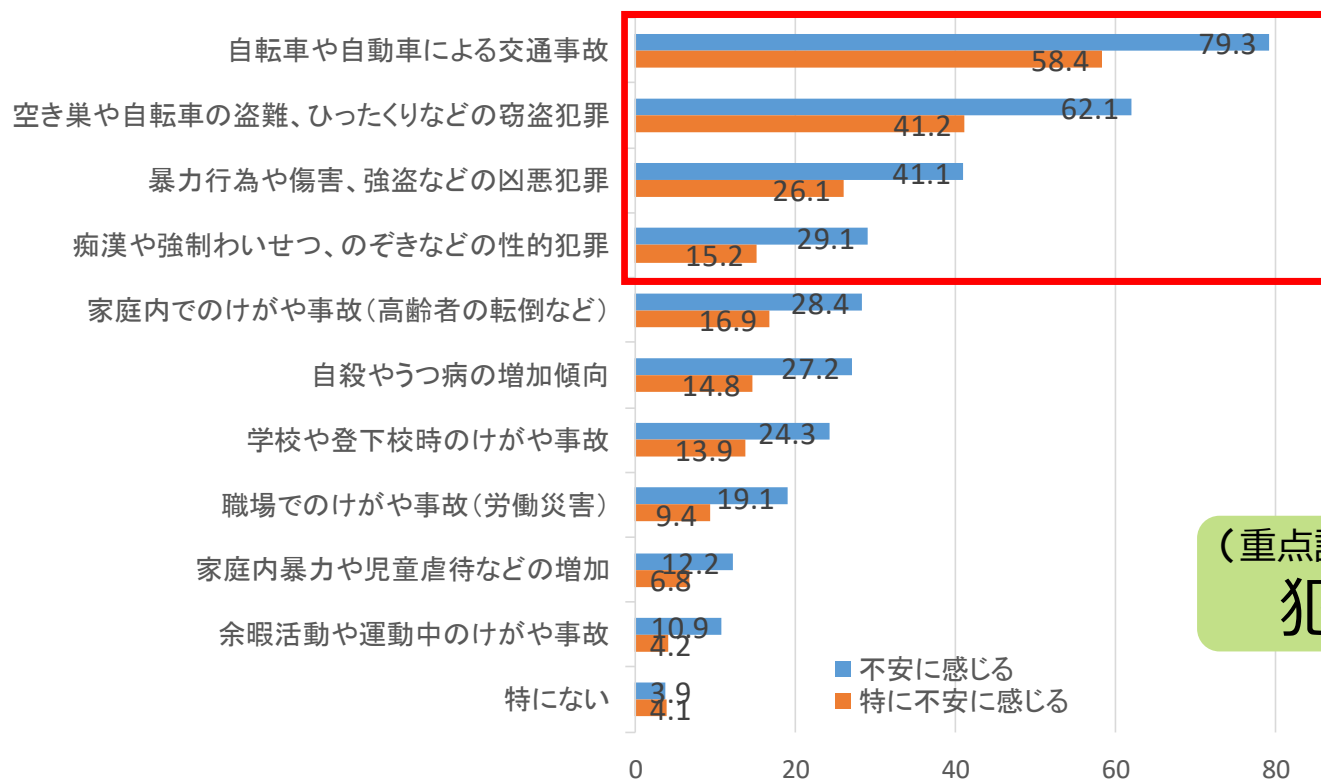
出典：久留米市民のけがや事故などについての実態調査 2011年(H23年)

出典：救急搬送データ…2010年(H22年)

2. 再認証取得後の取組 (2-2 重点分野に関するデータの検証)

重点分野の設定背景③ 取組開始時の安全診断

Q. 普段生活する中で不安を感じることは何ですか？



出典：市民意識調査2011年(H23年)

10万人当たりの
一般刑法犯認知件数

久留米市 1,514件

福岡県 1,455件

全国 1,159件

出典：警察統計 2011年(H23年)

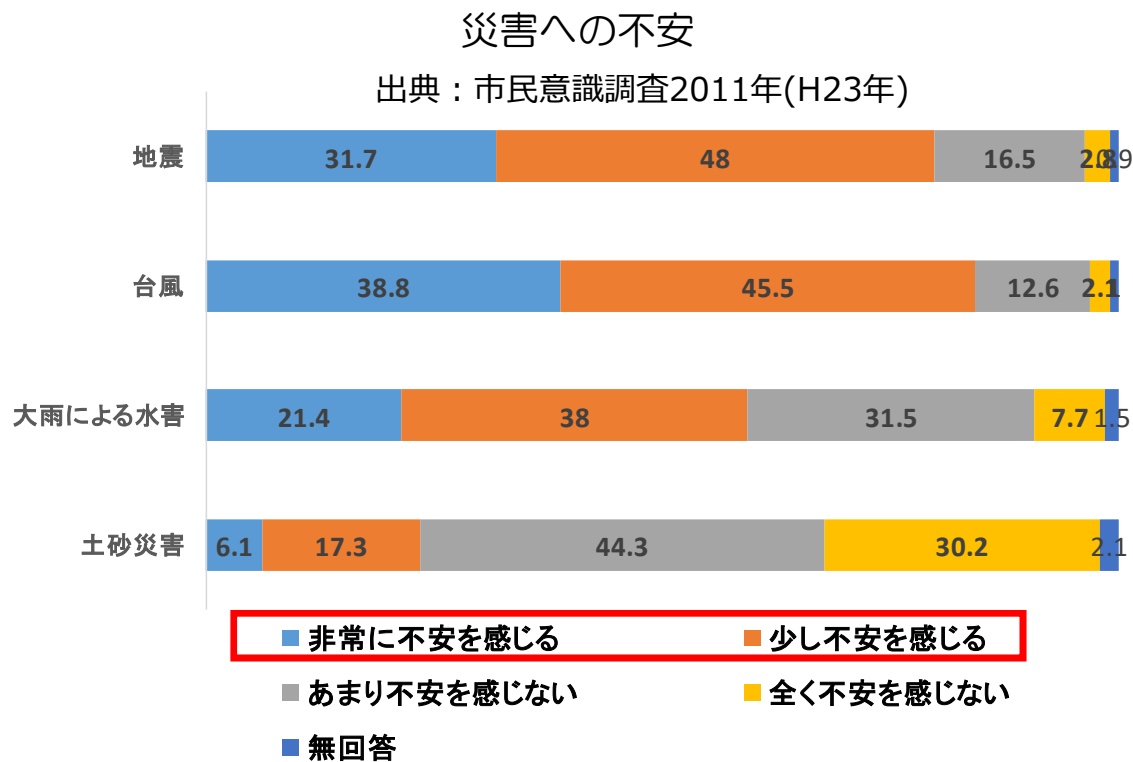
(重点課題)

犯罪・暴力の予防が必要

2. 再認証取得後の取組 (2-2 重点分野に関するデータの検証)

重点分野の設定背景④ 取組開始時の安全診断

福岡県の主な災害 1991～2009		
1991	台風19号	死者11名
1999	台風18号	死者4名
2005	福岡西方沖地震	死者1名
2009	九州北部豪雨	死者10名



不安を感じる	不安を感じない
79.7	19.3
84.3	14.7
59.4	39.2
23.4	74.5

(重点課題)
防災対策が必要

2. 再認証取得後の取組 (2-2 重点分野に関するデータの検証)

久留米市の重点分野に関するデータの推移

交通安全

(方向性)
交通事故を減らす



子どもの安全

(方向性)
子どものケガや
事故を予防する



高齢者の安全

(方向性)
高齢者のケガや
事故を予防する



犯罪・暴力の 予防

(方向性)
犯罪・暴力を予防する



自殺予防

(方向性)
自殺者をなくす



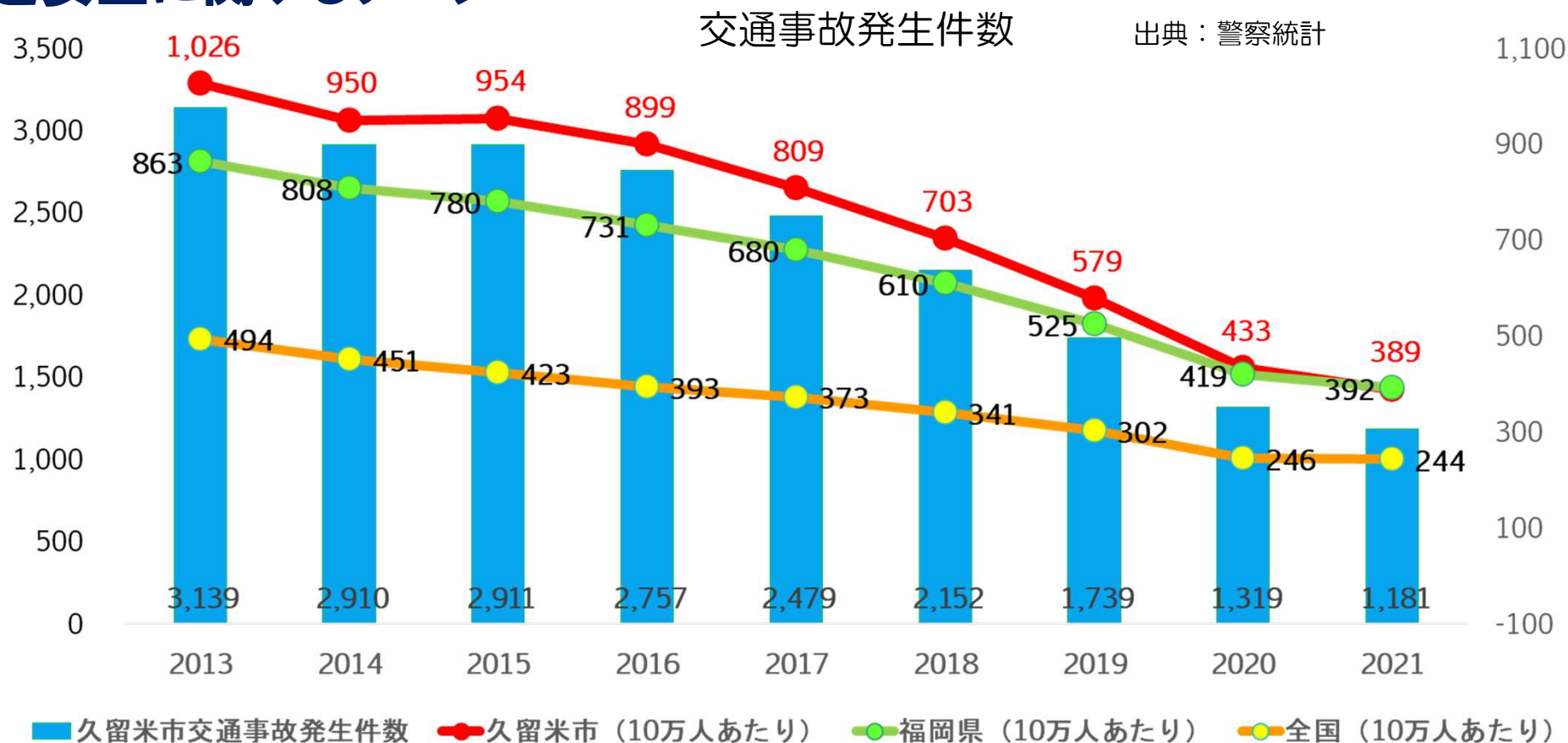
防災

(方向性)
災害に備える



2. 再認証取得後の取組 (2-2 重点分野に関するデータの検証)

交通安全に関するデータ



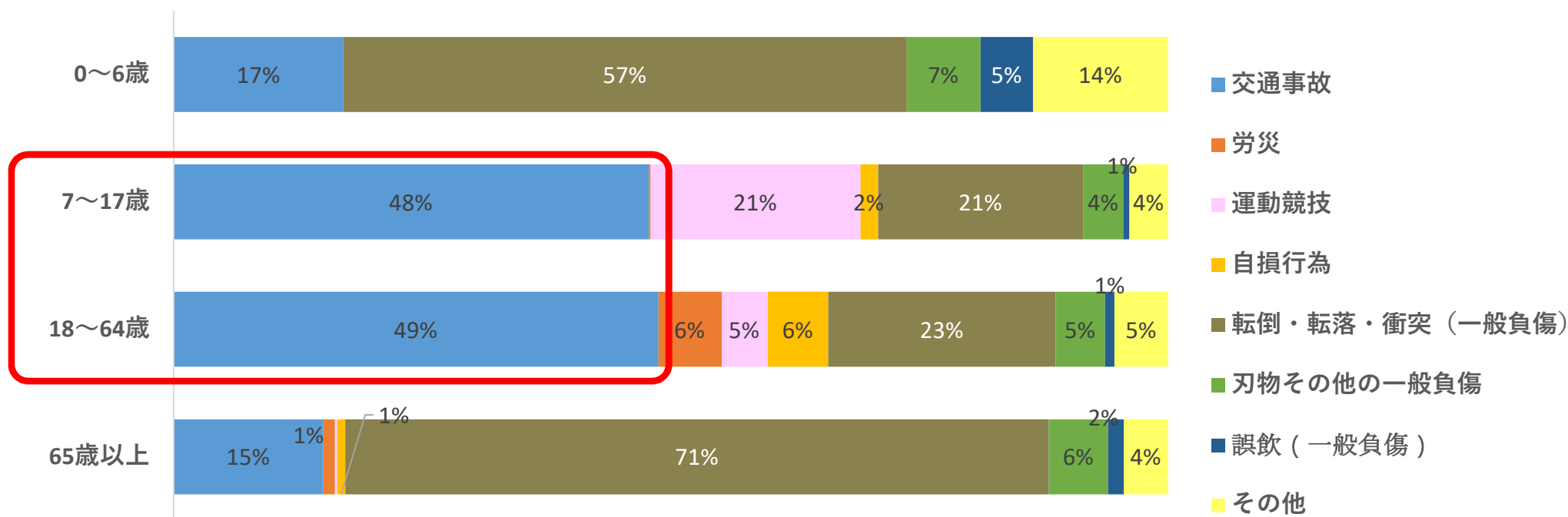
➤ 交通事故は減少しているが、全国に比べると交通事故の発生が多い。

2. 再認証取得後の取組 (2-2 重点分野に関するデータの検証)

交通安全に関するデータ

年齢層ごとの救急搬送原因

出典：救急搬送データ 2017年(H25年)～2021年(R3年)累計



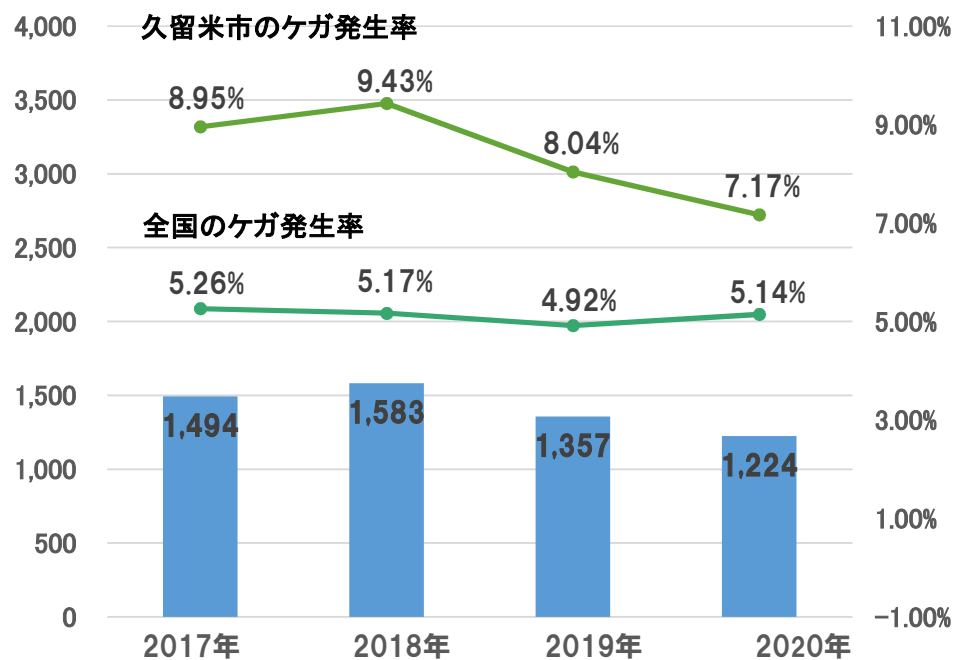
➤ 7～17歳と18～64歳では、「交通事故」の占める割合が約50%

2. 再認証取得後の取組 (2-2 重点分野に関するデータの検証)

子どもの安全に関するデータ

小学校でのケガの発生状況

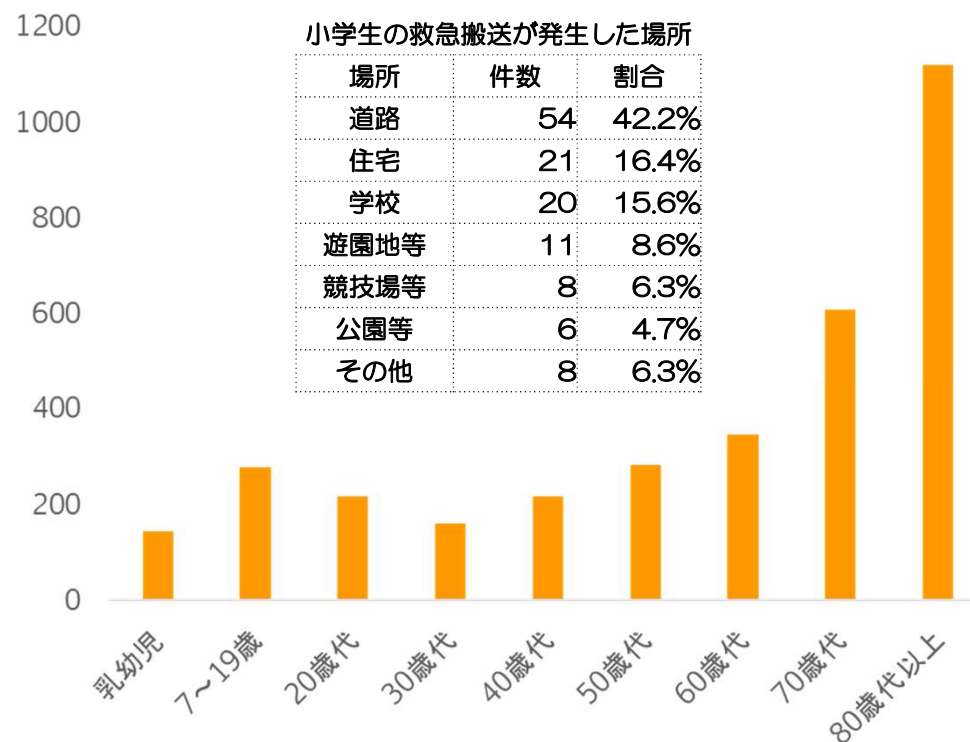
出典：日本スポーツ振興センター災害給データ



- 学校でのケガは減少
- 学校でのケガは、全国より多い

年代別救急搬送件数（病気を除く）

出典：救急搬送データ 2021年(R3年)

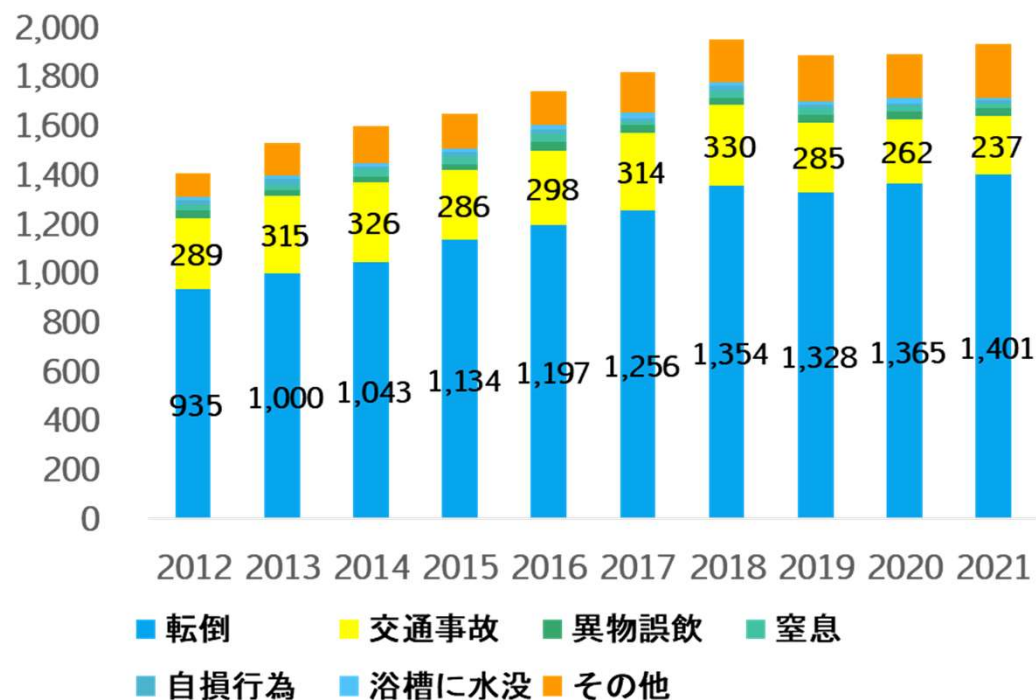


- 年代別に見ると、子どもの救急搬送は多い
- 小学生の救急搬送発生場所の上位は道路、住宅、学校

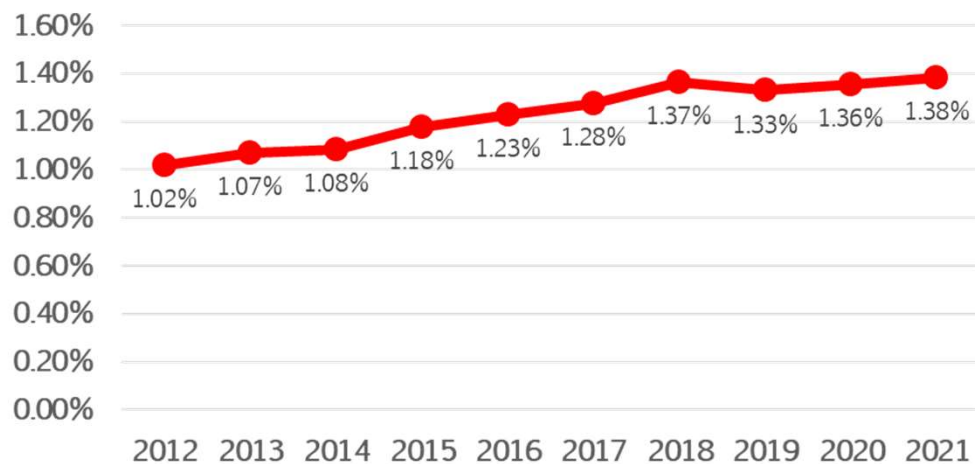
2. 再認証取得後の取組 (2-2 重点分野に関するデータの検証)

高齢者の安全に関するデータ

65歳以上の高齢者の救急搬送原因 出典：救急搬送データ



高齢者人口に対する転倒による救急搬送の割合



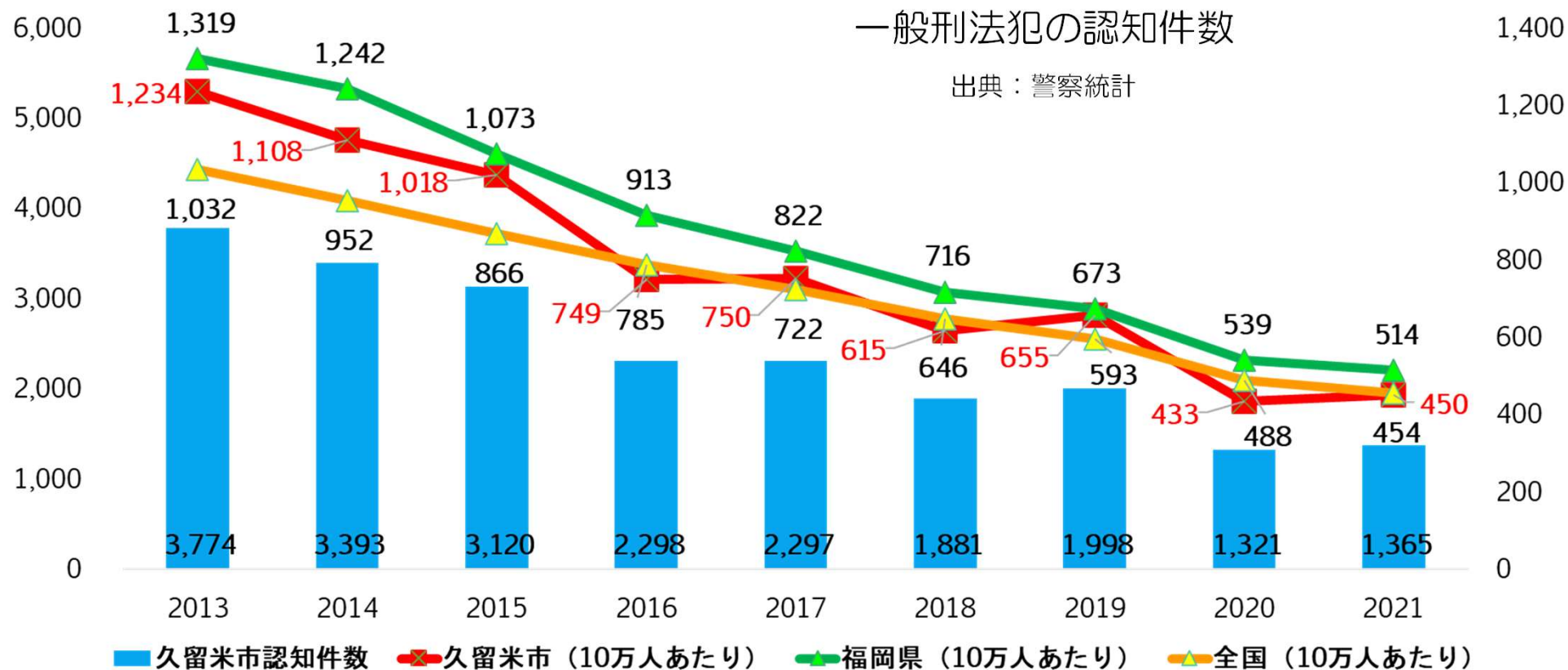
	2012	2013	2013	2013	2013	2013	2013	2013	2013	2013
高齢者人口	91,657	93,450	96,154	96,258	97,424	98,357	99,159	99,894	100,599	101,335
転倒による搬送数	935	1,000	1,043	1,134	1,197	1,256	1,354	1,328	1,365	1,401

- 高齢者の救急搬送は増加傾向
- 転倒による救急搬送が増加

- 高齢者人口に対する転倒による救急搬送の割合が増加

2. 再認証取得後の取組 (2-2 重点分野に関するデータの検証)

犯罪・暴力の予防に関するデータ



➤ 一般刑法犯の認知件数は減少

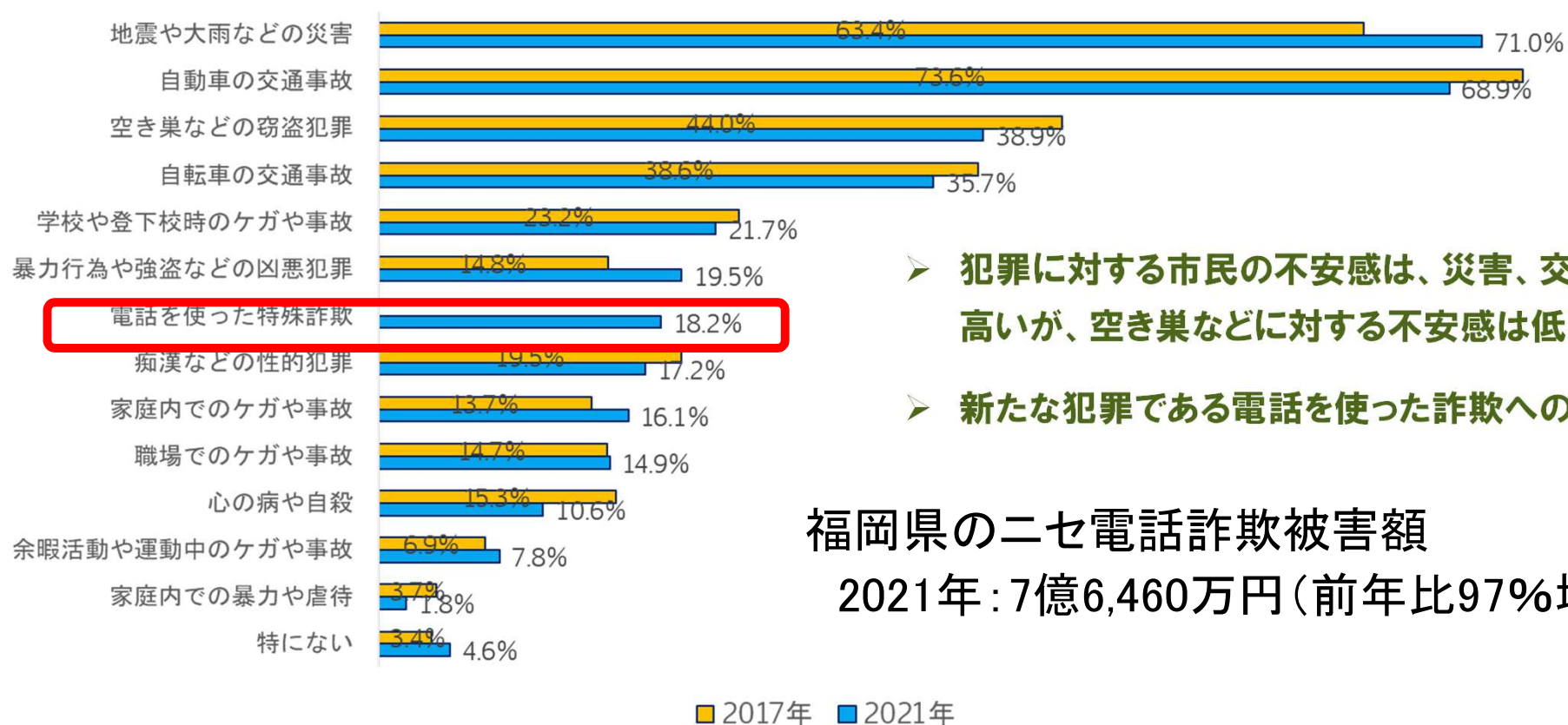
➤ 近年、人口10万人あたりの件数は、全国を下回る

2. 再認証取得後の取組 (2-2 重点分野に関するデータの検証)

犯罪・暴力の予防に関するデータ

ふだんの生活で不安に感じること

出典：市民意識調査 2021年(R3年)



➤ 犯罪に対する市民の不安感は、災害、交通事故の次に高いが、空き巣などに対する不安感は低下

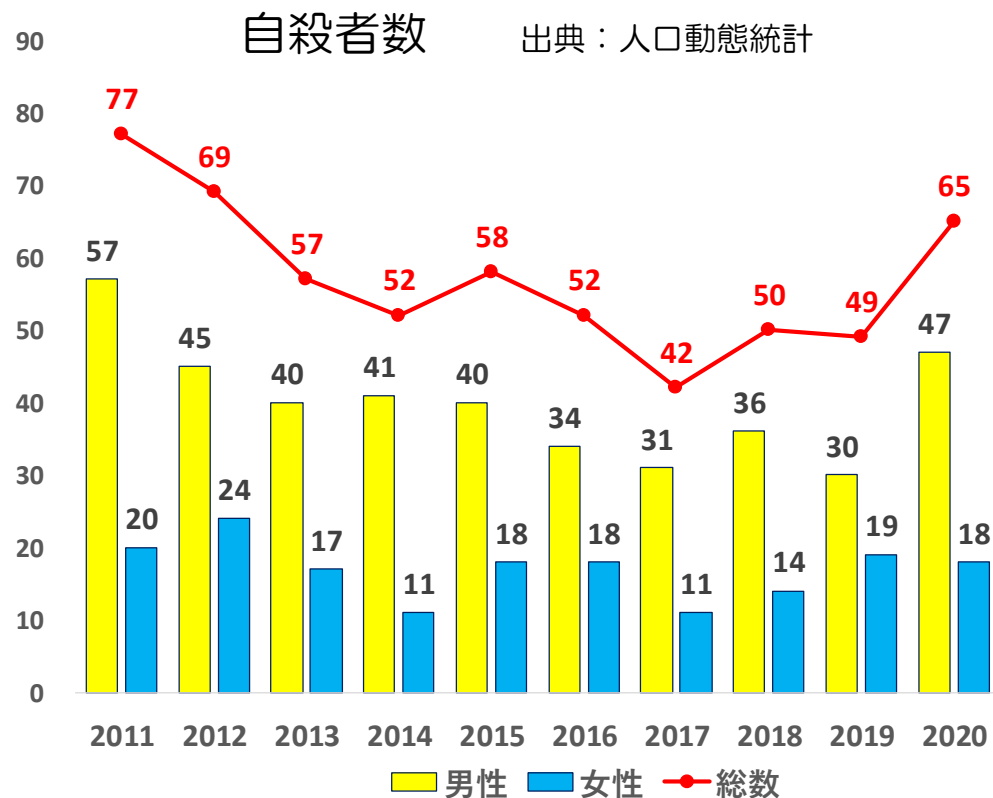
➤ 新たな犯罪である電話を使った詐欺への不安感が発生

福岡県の二セ電話詐欺被害額

2021年：7億6,460万円(前年比97%増)

2. 再認証取得後の取組 (2-2 重点分野に関するデータの検証)

自殺予防に関するデータ



➤ 自殺者数は減少傾向にあったが、2020年は増加

病気を含む年齢層別の死亡原因

出典：人口動態統計 2015年(H27年)～2019年(R1年)累計

年齢層	1位	2位	3位
0～9歳	染色体異常 14	感染症 3	周産期の病態 3
10～19歳	自殺 12	不慮の事故 4	新生物(腫瘍) 4
20～29歳	自殺 27	不慮の事故 7	新生物(腫瘍) 7
30～39歳	新生物(腫瘍) 27	自殺 23	不慮の事故 6
40～49歳	新生物(腫瘍) 124	自殺 41	脳血管疾患 28
50～59歳	新生物(腫瘍) 255	自殺 49	脳血管疾患 45
60～69歳	新生物(腫瘍) 846	心疾患 119	脳血管疾患 96
70～79歳	新生物(腫瘍) 1,320	心疾患 234	脳血管疾患 193
80～89歳	新生物(腫瘍) 1,652	心疾患 678	肺炎 489
90歳～	心疾患 670	老衰 654	新生物(腫瘍) 602

➤ 10歳代、20歳代では、自殺が死亡原因の第1位、30歳代、40歳代、50歳代では第2位

2. 再認証取得後の取組 (2-2 重点分野に関するデータの検証)

防災に関するデータ

近年の大雨と浸水被害の状況

出典：久留米市都市建設部調べ

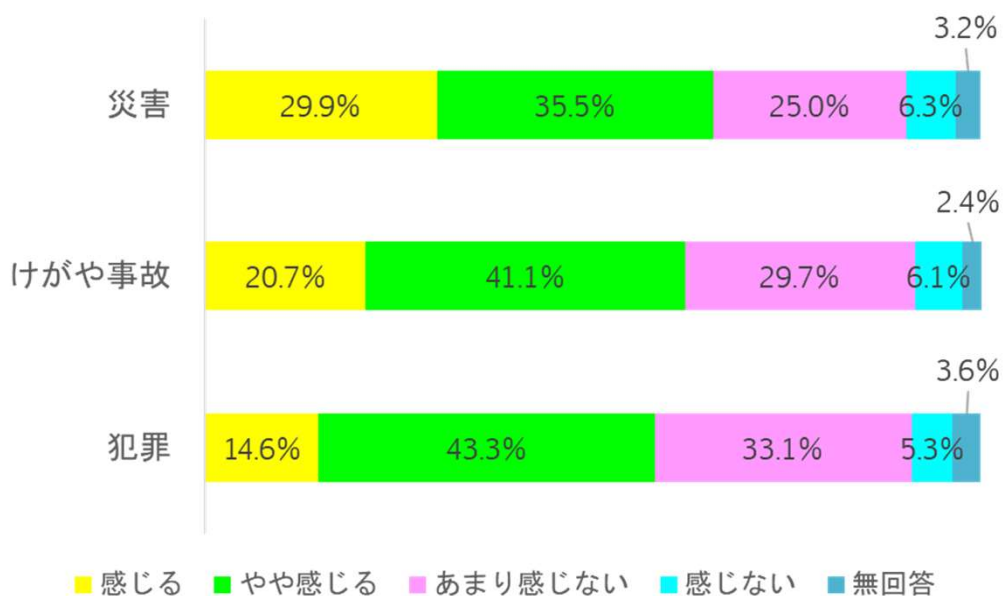
	1時間 最大雨量 (mm)	3時間 最大雨量 (mm)	24時間 最大雨量 (mm)	48時間 最大雨量 (mm)	72時間 最大雨量 (mm)	総雨量 (mm)	浸水件数
2018年 7月	40.5		279.5 観測史上1位	383.5 観測史上1位		386.0 (7/5~8)	床上： 423件 床下：1,011件
2019年 7月	90.0 観測史上1位	177.5 観測史上1位	335.5 観測史上1位	402.5 観測史上1位		474.5 (7/18~23)	床上： 196件 床下： 120件
2019年 7月	60.5	147.0	33.0	408.0		408.0 (8/26~29)	床上： 27件 床下： 24件
2020年 6月	92.5 観測史上1位		193.5	194.0		194.0 (6/26~29)	
2020年 7月	48.0	195.5	360.5 観測史上1位	483.0 観測史上1位	529.0	735.0 (7/5~10)	床上： 325件 床下：1,620件
2021年 8月	72.0		367.0 観測史上1位	572.5 観測史上1位	718.5 観測史上1位	896.5 (8/11~10)	床上： 518件 床下：2,194件

➤ 2018年から2021年まで、4年連続で、住宅の浸水被害が発生！

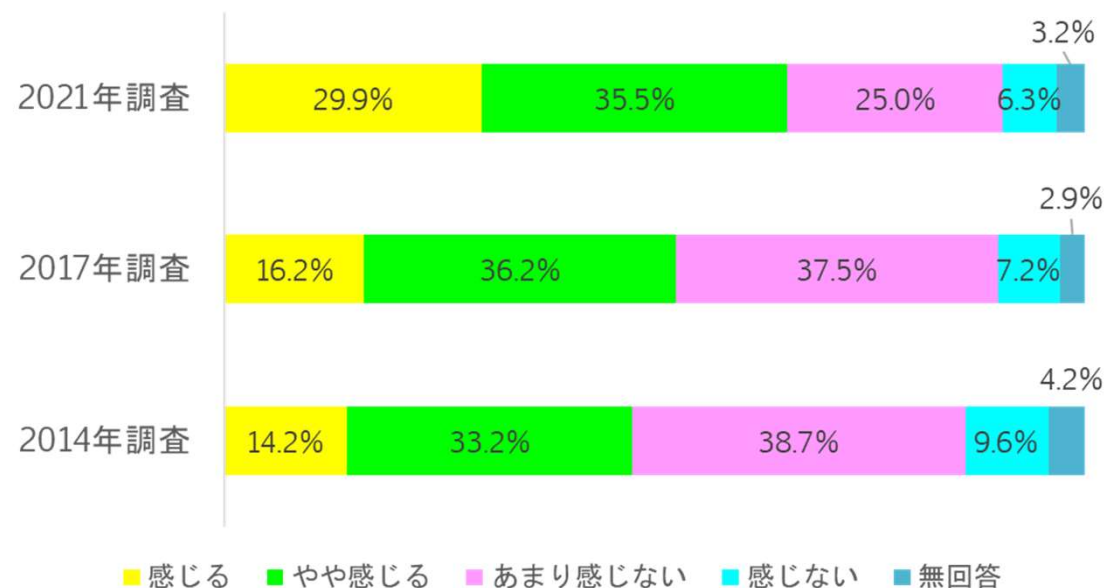
2. 再認証取得後の取組 (2-2 重点分野に関するデータの検証)

防災に関するデータ

けがや事故、犯罪、災害に対する不安感 (2021年久留米市民意識調査)



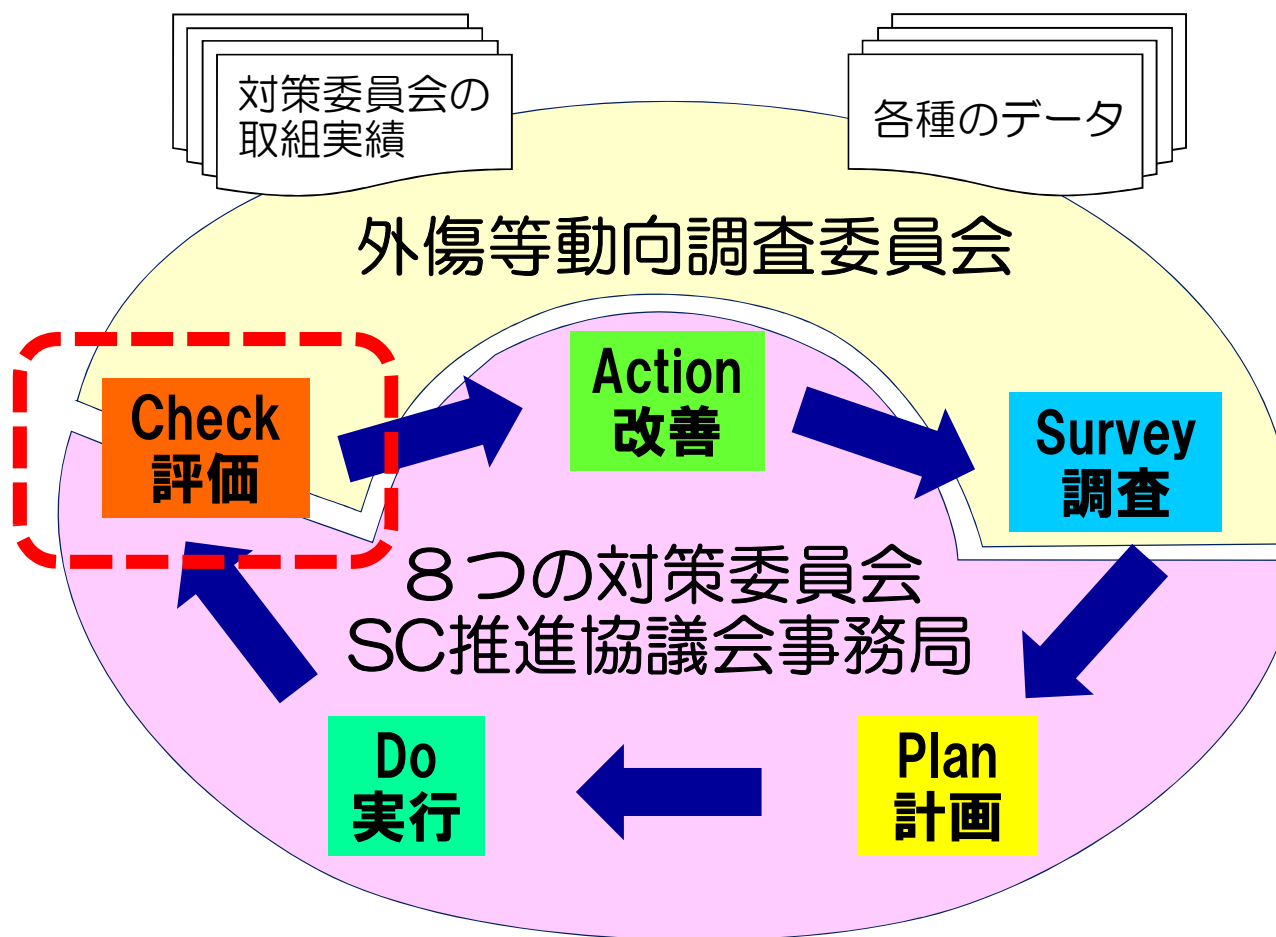
災害に対する不安感の経年変化 (2021年久留米市民意識調査)



➤ けがや事故、犯罪に比べ、災害の不安感が高い

➤ 災害に対する不安感が増大

2. 再認証取得後の取組 (2-3 対策委員会の取組成果の検証)



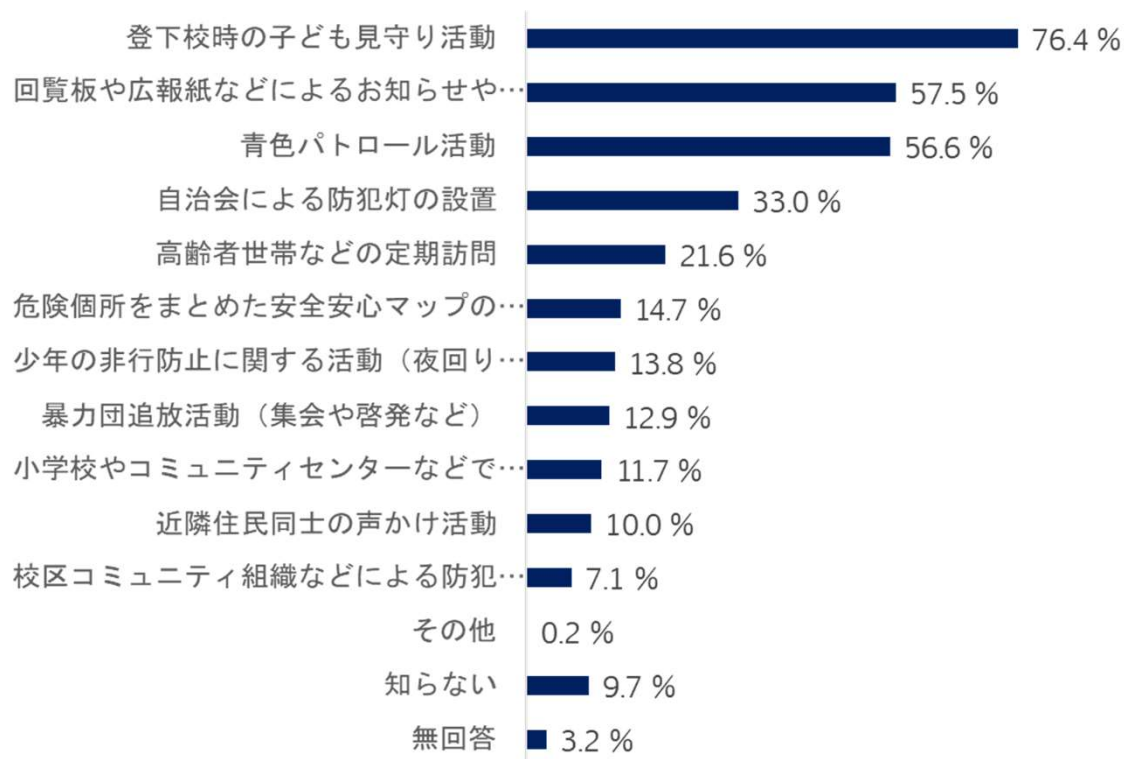
2. 再認証取得後の取組 (2-3 対策委員会の取組成果の検証)

推進協議会・対策委員会へのアドバイス例①

セーフコミュニティの普及啓発に関するアドバイス

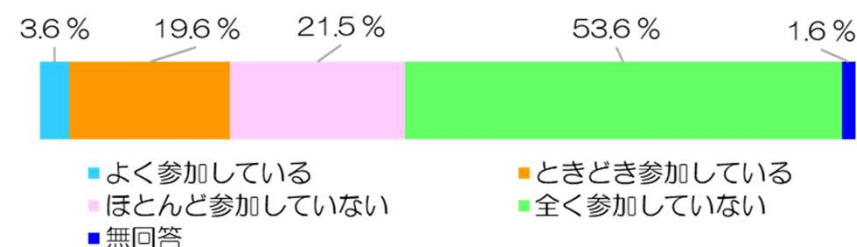
防犯活動の認知度

出典：セーフコミュニティ実態調査 2021年(R8年)



防犯活動の参加状況

出典：セーフコミュニティ実態調査 2021年(R8年)



「全く参加していない」 = 53.6%

「ほとんど参加していない」 = 21.5%

- **安全安心のまちづくりを持続していくためには、市民の参加を増やすことが大切である。**
- **セーフコミュニティの取組には、市民によく知られているものがある。**
- **一方で、取組に参加する市民は少ない。**

推進協議会・対策委員会へのアドバイス例①

セーフコミュニティの普及啓発に関するアドバイス

アドバイス

安全安心のまちづくりの持続には、市民参加の拡大が必要である。
市民の認識を高めるため、セーフコミュニティの取組を、ローカルTVで放映してはどうか。
安全安心に取り組む身近な市民の姿や思いを目にすることは、参加意欲の向上に繋がると思う。
映像は、アーカイブとして活用出来たら良い。

セーフコミュニティ推進協議会
事務局の対応

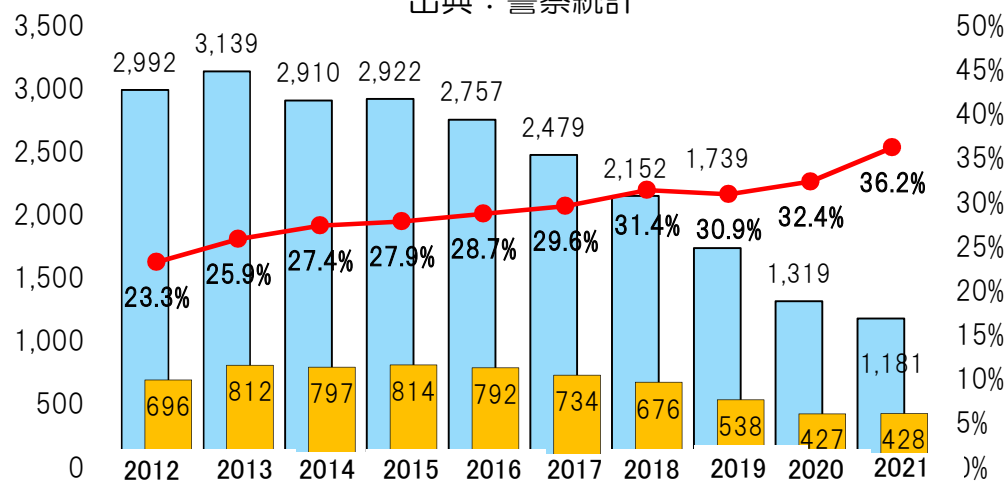
セーフコミュニティの取組や市民の声を動画にして、公式YouTubeにシリーズ配信していきたい。
アーカイブとしての活用や、地元のケーブルTVでの放映を検討する。

2. 再認証取得後の取組 (2-3 対策委員会の取組成果の検証)

推進協議会・対策委員会へのアドバイス例② 高齢者の交通事故防止に関するアドバイス

全交通事故に占める高齢者関連事故の割合

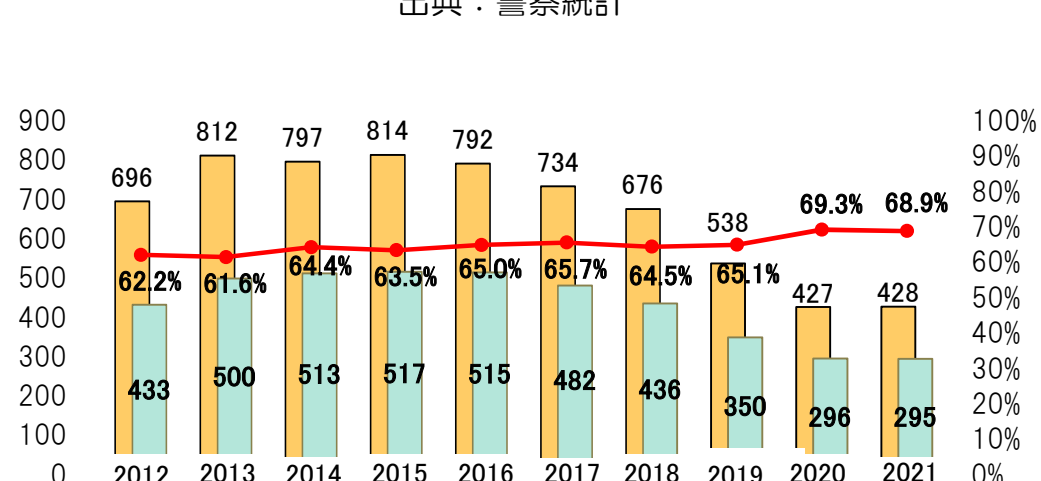
出典：警察統計



■ 全交通事故件数
■ 高齢者関連事故件数
● 全事故に占める高齢者関連事故の割合

高齢者関連事故に占める、高齢者が第一当事者(加害者)である割合

出典：警察統計



■ 高齢者関係事故(全体)
■ 高齢者関係事故(第一当事者)
● 高齢者関係事故に占める高齢者が第一当事者の割合

- 全交通事故に占める高齢者関連事故の割合、高齢者関連事故に占める高齢者の加害事故の割合が増加
- (公財) 交通事故総合分析センターから、認知機能の衰えた者は、人身事故の当事者となる割合が増すことが報告されており、高齢化の進展に伴い、高齢者の事故リスクは、高い水準で維持されることが考えられる

推進協議会・対策委員会へのアドバイス例②

高齢者の交通事故防止に関するアドバイス

アドバイス

高齢者関連の事故を減らすには、運転をしないことが最もよい。
成果指標を見ると自主返納の件数が減少している。
運転免許の自主返納を促す対策の実施を検討できないか？

交通安全対策委員会の対応

これまでの免許返納の状況などを確認し、検討を行う。

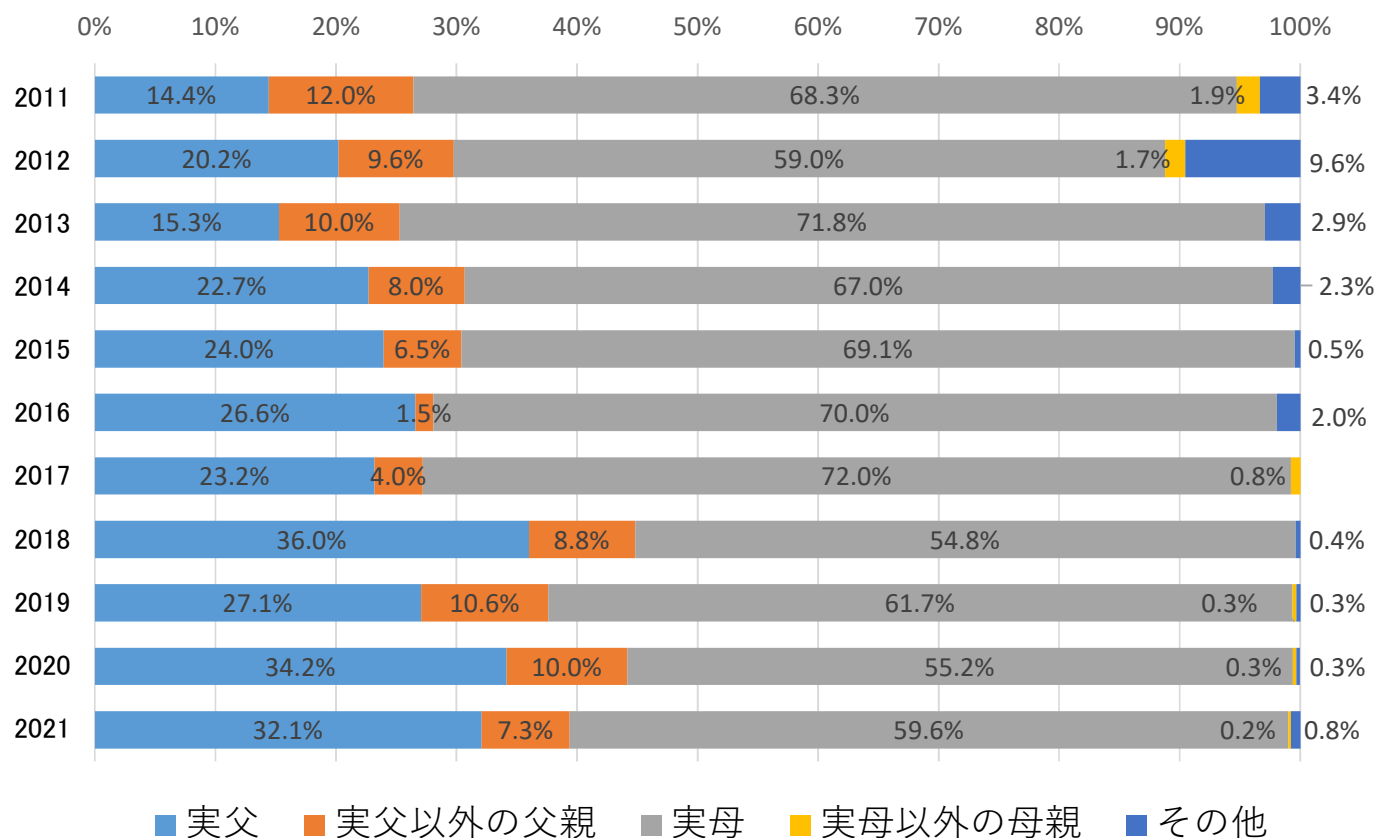
2. 再認証取得後の取組 (2-3 対策委員会の取組成果の検証)

推進協議会・対策委員会へのアドバイス例③

児童虐待防止に関するアドバイス

児童虐待者の割合

出典：家庭子ども相談課統計



児童虐待の7割程度が、実母によるものであり、母親を対象とした取組が必要であった。

近年、父親による虐待の割合が増している。父親に対する取組も必要ではないか？

2. 再認証取得後の取組 (2-3 対策委員会の取組成果の検証)

推進協議会・対策委員会へのアドバイス例③

児童虐待防止に関するアドバイス

アドバイス

児童虐待防止対策では、虐待者の6割が実母によるものであったことに着目されているが、近年、父親による虐待が増加する傾向が見られる。父親に着目した対策を検討できないか？

児童虐待防止対策委員会の
対応

父親への直接のアプローチは困難であるが、「こども予防接種セット」の交付の機会などに、父親への啓発を行っている。
また、街頭キャンペーンでは、男性に積極的に声を掛けるようにしている。
これからも、男性との接点を捉えて、直接的な啓発を行っていきたい。

3 これからの取組

3-1 コロナ禍でのデータの推移

3-2 久留米市の外因死の推移

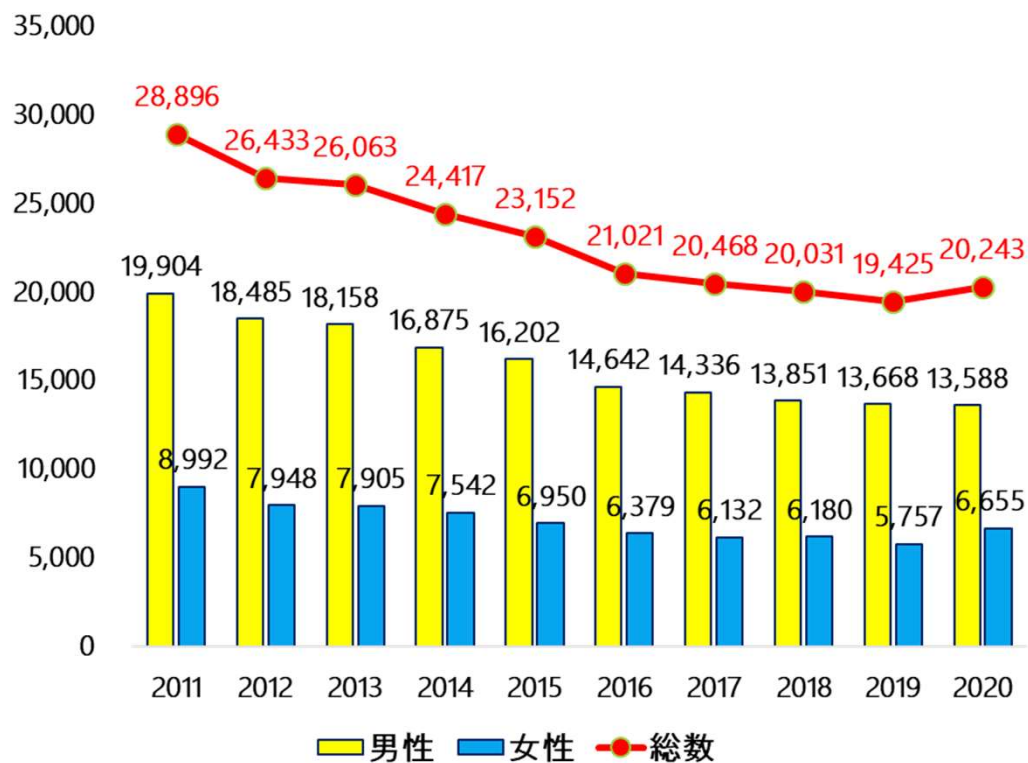
3-3 これからの取組

3. これからの取組 (3-1 コロナ禍でのデータの推移)

コロナ禍でのデータの推移①

全国の自殺者数

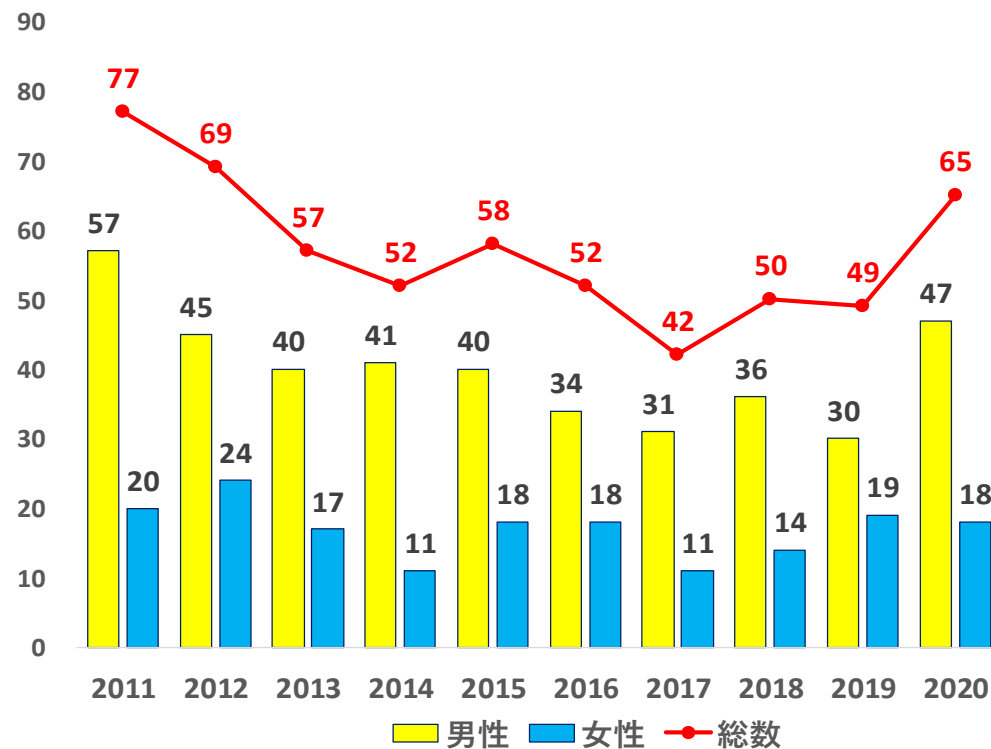
出典：人口動態統計



- 2020年は、全国の自殺者が増加
- 全国では、女性の自殺者が増加

久留米市の自殺者数

出典：人口動態統計



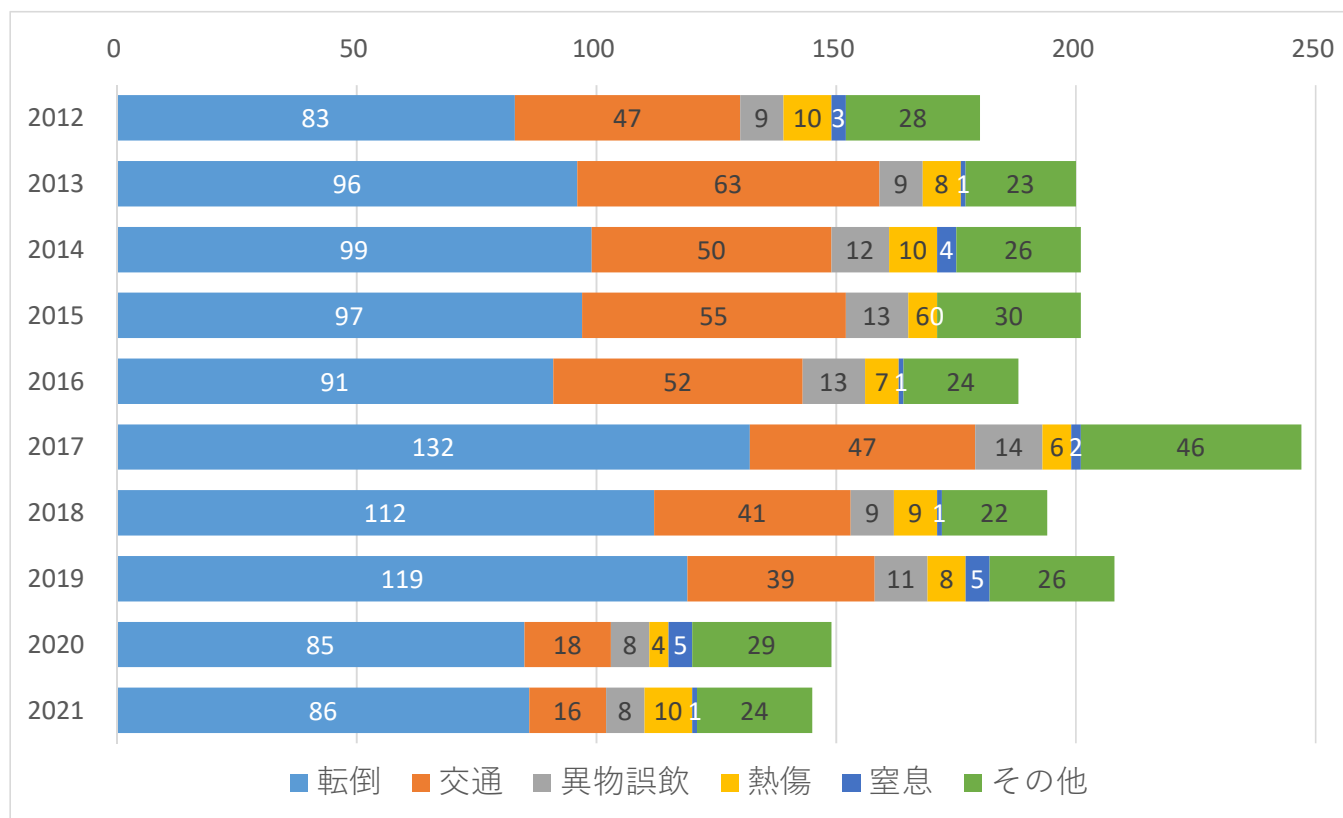
- 久留米市も自殺者数が増加
- 久留米市では男性が増加

3. これからの取組 (3-1 コロナ禍でのデータの推移)

コロナ禍でのデータの推移②

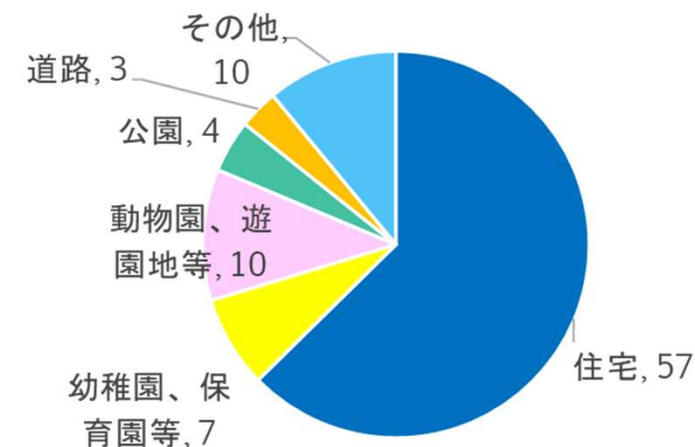
乳幼児（0～6歳）の救急搬送件数

出典：救急搬送データ



転倒発生場所

出典：救急搬送データ 2021年(R3年)



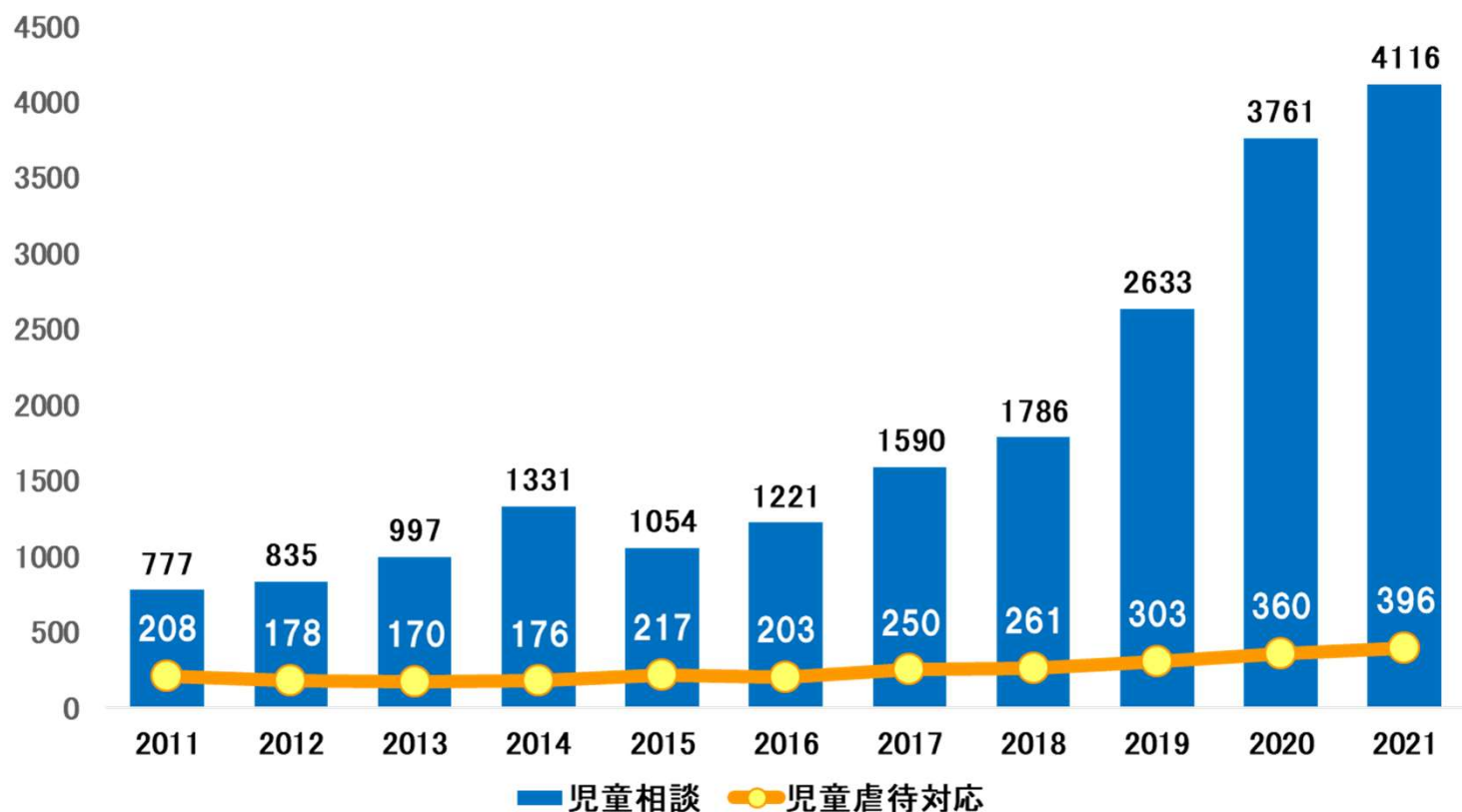
- 2017年～2019年は、乳幼児の転倒が増加
- 転倒の発生場所は、住宅が最多
- 2020年、2021年は、転倒が減少

3. これからの取組 (3-1 コロナ禍でのデータの推移)

コロナ禍でのデータの推移③

児童相談件数・児童虐待対応件数

出典：久留米市家庭子ども相談課統計



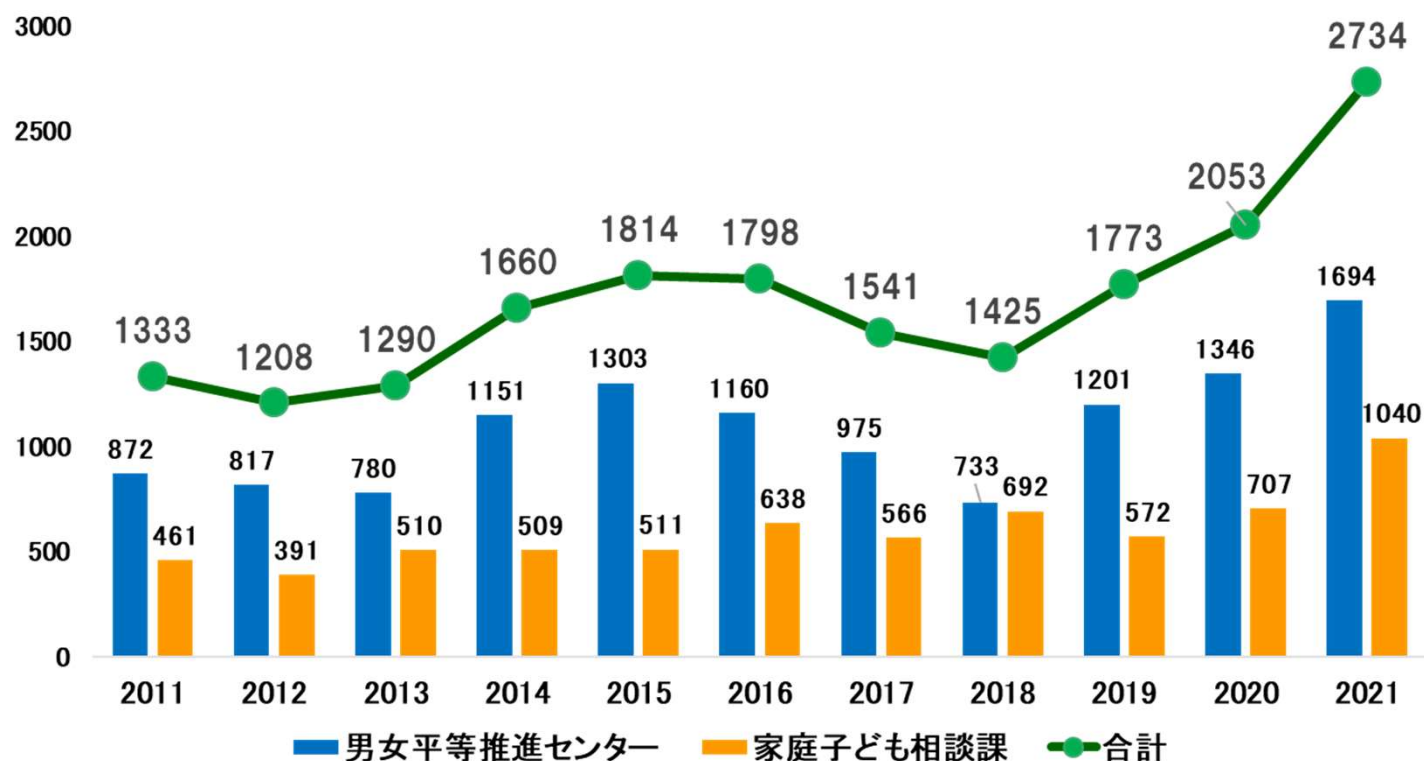
- 児童相談件数、児童虐待対応件数ともに増加
- 児童相談件数は、2019年以降急増
- 父親による虐待の増加(37ページ)との関連？

3. これからの取組 (3-1 コロナ禍でのデータの推移)

コロナ禍でのデータの推移④

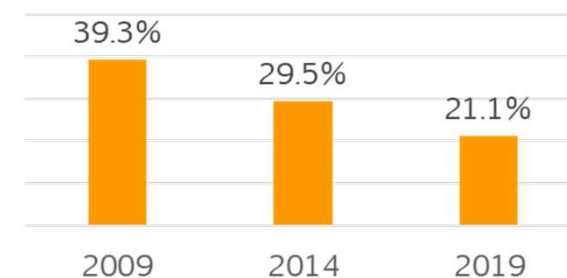
DVに関する相談件数

出典：久留米市男女平等推進センター、家庭子ども相談課統計



パートナーからDVを受けた人の割合

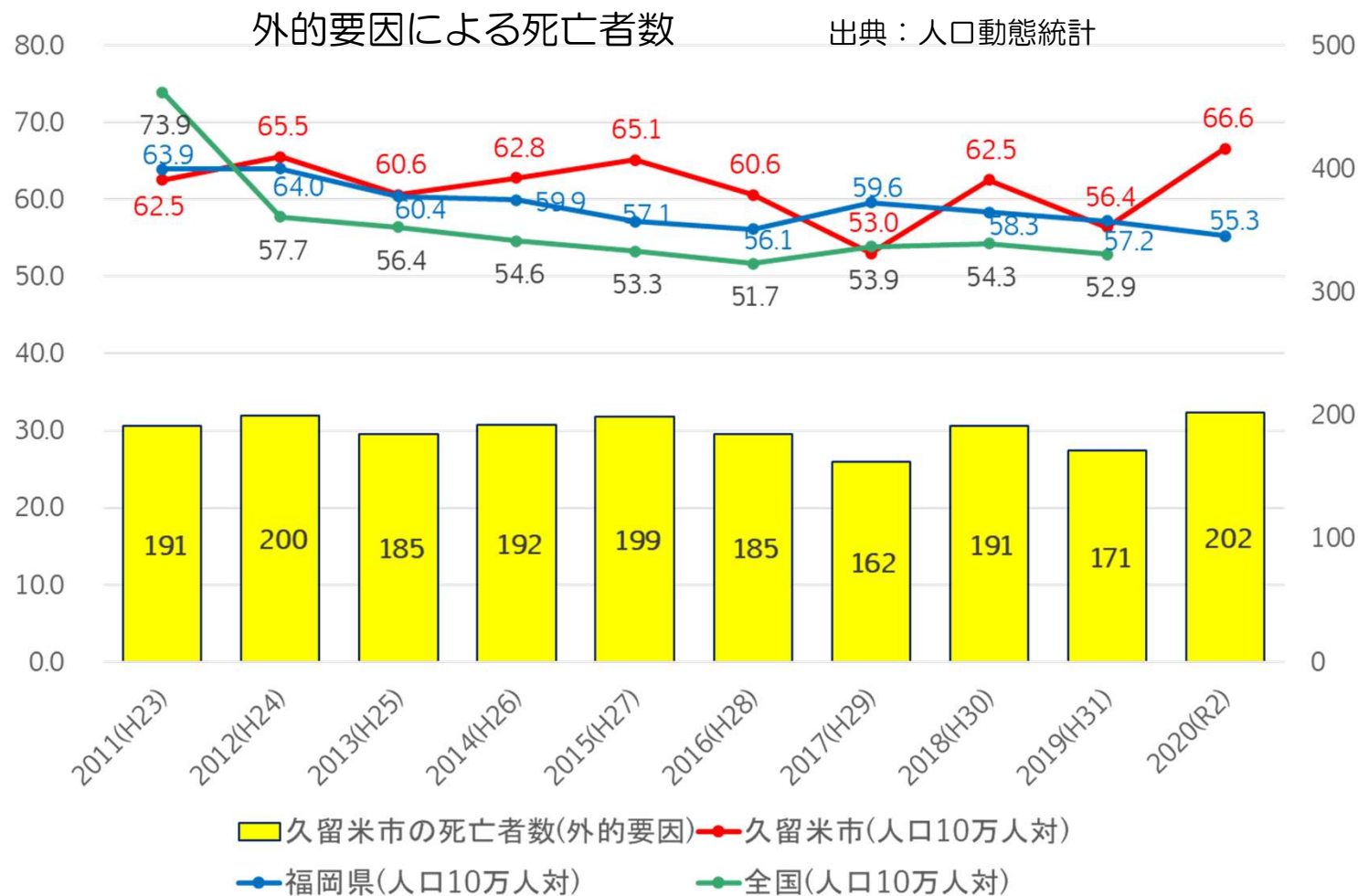
出典：男女平等に関する市民意識調査



- 2019年以降、DVに関する相談が急増
- パートナーからDVを受けた人の割合は、2019年の調査まで減少

3. これからの取組 (3-2 久留米市の外因死の推移)

久留米市の外因死の推移①



- 外的要因による死亡者数は、ほぼ横ばい
- 10万人あたりの死亡者数は、全国、福岡県を上回ることが多い。

3. これからの取組 (3-2 久留米市の外因死の推移)

久留米市の外因死の推移②

病気を除く死亡原因の上位

出典：人口動態統計 2007年(H19年)～2011年(H23年)の累計

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
0～9歳	溺死・溺水 2	交通事故 1			
10～19歳	自殺 8	交通事故 5	転倒・転落 1	窒息 1	
20～29歳	自殺 38	交通事故 7	溺死・溺水 4	煙・火 1	
30～39歳	自殺 59	交通事故 6	中毒 4	転倒・転落 2	他殺 1
40～49歳	自殺 59	交通事故 6	中毒 3	溺死・溺水 2	転倒・転落 1
50～59歳	自殺 86	交通事故 13	溺死・溺水 9	窒息 7	その他
60～69歳	自殺 56	溺死・溺水 14	交通事故 12	窒息 10	転倒・転落 7
70～79歳	溺死・溺水 44	自殺 40	窒息 26	転倒・転落 25	交通事故 17
80～89歳	溺死・溺水 55	窒息 47	転倒・転落 24	自殺 21	その他
90歳～	転倒・転落 23	窒息 22	溺死・溺水 11	交通事故 6	その他
全年齢	自殺 369	溺死・溺水 141	窒息 115	転倒・転落 88	交通事故 84

3. これからの取組 (3-2 久留米市の外因死の推移)

久留米市の外因死の推移②

病気を除く死亡原因の上位

出典：人口動態統計 2008年(H20年)～2012年(H24年)の累計

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
0～9歳	溺死・溺水	交通事故			
10～19歳	自殺	交通事故	転倒・転落		
20～29歳	自殺	交通事故	溺死・溺水	煙・火	他殺
30～39歳	自殺	交通事故	中毒	転倒・転落	溺死・溺水
40～49歳	自殺	交通事故	他殺	中毒	溺死・溺水
50～59歳	自殺	交通事故	溺死・溺水	窒息	転倒・転落
60～69歳	自殺	溺死・溺水	窒息	交通事故	転倒・転落
70～79歳	溺死・溺水	自殺	窒息	転倒・転落	交通事故
80～89歳	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	自殺	交通事故
90歳～	転倒・転落	窒息	溺死・溺水	交通事故	煙・火
全年齢	自殺	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	交通事故

3. これからの取組 (3-2 久留米市の外因死の推移)

久留米市の外因死の推移②

病気を除く死亡原因の上位

出典：人口動態統計 2009年(H21年)～2013年(H25年)の累計

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
0～9歳	溺死・溺水	交通事故			
10～19歳	自殺	交通事故	転倒・転落		
20～29歳	自殺	交通事故	溺死・溺水	煙・火	他殺
30～39歳	自殺	中毒	交通事故	転倒・転落	溺死・溺水
40～49歳	自殺	交通事故	溺死・溺水	窒息	転倒・転落
50～59歳	自殺	交通事故	窒息	溺死・溺水	転倒・転落
60～69歳	自殺	溺死・溺水	交通事故	窒息	転倒・転落
70～79歳	自殺	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	交通事故
80～89歳	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	自殺	交通事故
90歳～	転倒・転落	窒息	溺死・溺水	交通事故	煙・火
全年齢	自殺	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	交通事故

3. これからの取組 (3-2 久留米市の外因死の推移)

久留米市の外因死の推移②

病気を除く死亡原因の上位

出典：人口動態統計 2010年(H22年)～2014年(H26年)の累計

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
0～9歳	溺死・溺水	交通事故			
10～19歳	自殺	交通事故	転倒・転落	窒息	
20～29歳	自殺	交通事故	溺死・溺水		
30～39歳	自殺	交通事故	中毒	転倒・転落	溺死・溺水
40～49歳	自殺	交通事故	窒息	中毒	煙・火
50～59歳	自殺	交通事故	窒息	溺死・溺水	中毒等
60～69歳	自殺	溺死・溺水	交通事故	窒息	転倒・転落
70～79歳	自殺	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	交通事故
80～89歳	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	自殺	交通事故
90歳～	転倒・転落	窒息	溺死・溺水	交通事故	煙・火
全年齢	自殺	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	交通事故

3. これからの取組 (3-2 久留米市の外因死の推移)

久留米市の外因死の推移②

病気を除く死亡原因の上位

出典：人口動態統計 2011年(H23年)～2015年(H27年)の累計

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
0～9歳	交通事故	溺死・溺水			
10～19歳	自殺	交通事故	窒息	転倒・転落	
20～29歳	自殺	交通事故	溺死・溺水		
30～39歳	自殺	交通事故	転倒・転落	溺死・溺水	窒息
40～49歳	自殺	交通事故	窒息	転倒・転落	
50～59歳	自殺	交通事故	窒息	転倒・転落	溺死・溺水
60～69歳	自殺	溺死・溺水	窒息	交通事故	転倒・転落
70～79歳	溺死・溺水	自殺	窒息	転倒・転落	交通事故
80～89歳	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	自殺	交通事故
90歳～	転倒・転落	窒息	溺死・溺水	交通事故	自殺
全年齢	自殺	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	交通事故

3. これからの取組 (3-2 久留米市の外因死の推移)

久留米市の外因死の推移②

病気を除く死亡原因の上位

出典：人口動態統計 2012年(H24年)～2016年(H28年)の累計

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
0～9歳	交通事故	溺死・溺水			
10～19歳	自殺	交通事故	窒息	転倒・転落	
20～29歳	自殺	交通事故	転倒・転落		
30～39歳	自殺	交通事故	転倒・転落	煙・火	窒息
40～49歳	自殺	交通事故	窒息	転倒・転落	
50～59歳	自殺	窒息	交通事故	転倒・転落	溺死・溺水
60～69歳	自殺	溺死・溺水	窒息	交通事故	転倒・転落
70～79歳	溺死・溺水	自殺	窒息	交通事故	転倒・転落
80～89歳	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	自殺	交通事故
90歳～	転倒・転落	窒息	溺死・溺水	交通事故	自殺
全年齢	自殺	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	交通事故

3. これからの取組 (3-2 久留米市の外因死の推移)

久留米市の外因死の推移②

病気を除く死亡原因の上位

出典：人口動態統計 2013年(H25年)～2017年(H29年)の累計

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
0～9歳	交通事故	溺死・溺水			
10～19歳	自殺	窒息	交通事故		
20～29歳	自殺	交通事故	転倒・転落		
30～39歳	自殺	交通事故	転倒・転落	煙・火	中毒
40～49歳	自殺	交通事故	窒息	転倒・転落	煙・火
50～59歳	自殺	窒息	交通事故	転倒・転落	中毒
60～69歳	自殺	溺死・溺水	窒息	交通事故	転倒・転落
70～79歳	溺死・溺水	自殺	窒息	転倒・転落	交通事故
80～89歳	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	自殺	交通事故
90歳～	転倒・転落	窒息	溺死・溺水	交通事故	自殺
全年齢	自殺	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	交通事故

3. これからの取組 (3-2 久留米市の外因死の推移)

久留米市の外因死の推移②

病気を除く死亡原因の上位

出典：人口動態統計 2014年(H26年)～2018年(H30年)の累計

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
0～9歳	溺死・溺水				
10～19歳	自殺	窒息	交通事故		
20～29歳	自殺	交通事故	転倒・転落		
30～39歳	自殺	交通事故	転倒・転落	煙・火	中毒
40～49歳	自殺	交通事故	窒息	転倒・転落	煙・火
50～59歳	自殺	窒息	交通事故	溺死・溺水	転倒・転落
60～69歳	自殺	溺死・溺水	窒息	交通事故	転倒・転落
70～79歳	溺死・溺水	自殺	窒息	転倒・転落	交通事故
80～89歳	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	自殺	交通事故
90歳～	転倒・転落	窒息	溺死・溺水	交通事故	自殺
全年齢	自殺	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	交通事故

3. これからの取組 (3-2 久留米市の外因死の推移)

久留米市の外因死の推移②

病気を除く死亡原因の上位

出典：人口動態統計 2015年(H27年)～2019年(R1年)の累計

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
0～9歳	溺死・溺水				
10～19歳	自殺	交通事故	窒息	転倒・転落	
20～29歳	自殺	交通事故	転倒・転落		
30～39歳	自殺	煙・火	交通事故	転倒・転落	中毒
40～49歳	自殺	交通事故	窒息	転倒・転落	煙・火
50～59歳	自殺	交通事故	転倒・転落	窒息	溺死・溺水
60～69歳	自殺	溺死・溺水	窒息	交通事故	転倒・転落
70～79歳	溺死・溺水	自殺	窒息	転倒・転落	交通事故
80～89歳	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	自殺	交通事故
90歳～	転倒・転落	溺死・溺水	窒息	交通事故	自殺
全年齢	自殺	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	交通事故

3. これからの取組 (3-2 久留米市の外因死の推移)

久留米市の外因死の推移②

病気を除く死亡原因の上位

出典：人口動態統計 2016年(H28年)～2020年(R2年)の累計

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
0～9歳	溺死・溺水 2	転倒・転落 1	窒息 1		
10～19歳	自殺 13	交通事故 2	転倒・転落 1		
20～29歳	自殺 23	交通事故 7	転倒・転落 1		
30～39歳	自殺 30	溺死・溺水 3	煙・火 1	交通事故 1	転倒・転落 1
40～49歳	自殺 43	窒息 4	転倒・転落 4	交通事故 3	溺死・溺水 1
50～59歳	自殺 50	転倒・転落 5	交通事故 4	窒息 3	中毒 3
60～69歳	自殺 39	溺死・溺水 21	窒息 10	交通事故 9	転倒・転落 6
70～79歳	溺死・溺水 52	自殺 31	窒息 24	転倒・転落 13	交通事故 9
80～89歳	溺死・溺水 83	窒息 33	転倒・転落 33	自殺 24	交通事故 15
90歳～	転倒・転落 45	溺死・溺水 28	窒息 24	自殺 5	交通事故 3
全年齢	自殺 258	溺死・溺水 194	窒息 108	転倒・転落 100	交通事故 54

3. これからの取組（3-2 久留米市の外因死の推移）

病気を除く死亡原因の上位の比較

	1位	2位	3位	4位	5位
2007～2011累計	自殺 369	溺死・溺水 141	窒息 115	転倒・転落 88	交通事故 84
2016～2020累計	自殺 258	溺死・溺水 194	窒息 108	転倒・転落 100	交通事故 54

上位の死亡原因に対する今後の取組など

死亡原因	今後の取組など
自殺	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 全体順位は、一貫して1位であるが、自殺者数は減少傾向 ➤ 対策委員会の取組をしっかりと継続
溺死・溺水	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 対策を行っているが、死亡者数が増加 ➤ より効果的な対策を行うために、新たなデータの収集、分析が必要
窒息	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 死亡原因の上位であるが、重点取組に位置付けていない ➤ 原因を究明するため、新たなデータの収集、分析が必要
転倒・転落	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 高齢者の転倒は増加傾向であるが、必要な対策は明確 ➤ 対策委員会の取組をしっかりと継続
交通事故	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 全体での順位は変わらないが、死亡者数は減少 ➤ 対策委員会の取組をしっかりと継続

外相等動向調査委員会のこれからの取組

1. コロナ禍で動きがあったデータを注視

- データの動きが、コロナの影響であったかどうかを見極めていく。

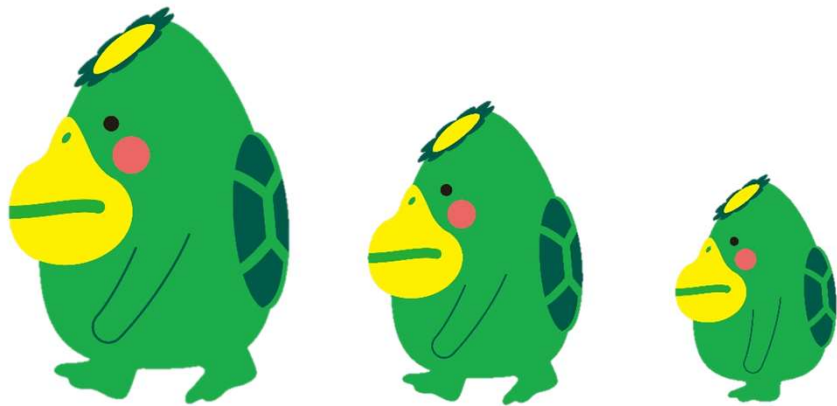
2. 新たなデータの収集、分析

- 窒息の原因を究明するため、原因となる食べ物や基礎疾患との関連など、新たなデータの収集、分析を行う。
- より効果的な溺死・溺水対策を行うため、基礎疾患や服薬との関連など、新たなデータの収集、分析を行う。

3. 医療機関等との連携の強化

- ②の新たなデータの収集、分析に加え、医療機関や高齢者施設などで行われている患者や入居者に対する安全対策を、家庭などの安全に活かすため、連携を強化する。

ご清聴ありがとうございました。



外傷等動向調査委員会